

倉敷市中央斎場施設整備事業

事業契約書（案）

令和2年5月

倉敷市

倉敷市中央斎場施設整備事業 事業契約書

- 1 事業名 倉敷市中央斎場施設整備事業
- 2 事業目的 上記事業の遂行（具体的には約款前文に定めるとおり）
- 3 事業場所 岡山県倉敷市福田町福田434番地1
- 4 事業期間 自契約成立日 至令和26年3月31日まで
ただし、約款の定めるところに従って短縮される場合がある。
- 5 契約金額 金_____円（うち消費税及び地方消費税の額_____円）
ただし、約款の定めるところに従って金額の改定又は減額がなされた場合には、当該改定又は減額がなされた金額とする。
- 6 契約保証金 約款第9条の規定による。
- 7 契約条件 約款のとおり

上記の事業契約について、下記の発注者と受注者は、各々対等な立場における合意に基づいて、約款の定めるところに従い、上記のとおり公正に契約し、信義に従って誠実にこれを履行することを誓約する。

なお、本契約は、仮契約であって、本契約が民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成11年法律第117号）第12条に基づく倉敷市議会の議決を取得した日に成立することを確認する。

本契約の締結を証するため、本書2通を作成し、当事者記名押印のうえ、各自その1通を保有するものとする。

令和2年____月____日

発注者： 倉敷市

市長 伊 東 香 織 印

受注者：

印

倉敷市中央斎場施設整備事業
事業契約約款

目 次

第1章 用語の定義	2
第1条（定義）	2
第2章 総則	6
第2条（目的及び解釈）	6
第3条（公共性及び民間事業の趣旨の尊重）	6
第4条（事業日程）	7
第5条（事業場所）	7
第6条（本事業の概要）	7
第7条（事業者の資金調達）	7
第8条（許認可及び届出等）	7
第9条（契約保証金）	8
第3章 設計	9
第10条（設計業務）	9
第11条（第三者による実施）	10
第12条（基本設計の完了）	10
第13条（実施設計の完了）	10
第14条（設計の変更）	11
第4章 本件工事	12
第15条（事前調査）	12
第16条（本件工事に伴う近隣対策等）	13
第17条（本件工事期間中の保険）	14
第18条（本件工事の施工）	14
第19条（第三者による施工）	15
第20条（事業者の施工責任）	15
第21条（工事施工計画）	15
第22条（工事施工報告）	15
第23条（備品等の整備）	16
第24条（工事監理）	16
第25条（第三者による実施）	17
第26条（解体・撤去等）	18
第27条（中間確認及び建設現場立会い等）	19
第28条（事業者による完成検査等）	19

第 29 条（火葬炉の性能試験及びシックハウス検査並びに環境保全対策）	19
第 30 条（法令による完成検査等）	21
第 31 条（市による完成確認）	22
第 32 条（施設供用業務の実施体制整備）	23
第 33 条（施設供用業務マニュアル及び全体施設供用計画書の提出）	23
第 34 条（業務完了手続）	24
第 35 条（工事の一時停止）	25
第 36 条（工期の変更）	25
第 37 条（工期変更の場合の費用負担）	26
第 38 条（第三者等に対する損害）	26
第 39 条（本件施設への損害）	27
第 40 条（本施設の引渡し等）	27
第 41 条（運営開始の遅延）	28
第 42 条（担保責任）	28
第 43 条（予約・運営支援システム整備及び稼働準備等）	29
第 6 章 施設供用業務	30
第 44 条（施設供用業務）	30
第 45 条（費用負担）	32
第 46 条（第三者による実施）	32
第 47 条（施設供用業務の遂行計画）	32
第 48 条（施設供用業務の実施体制）	33
第 49 条（情報管理）	33
第 50 条（修繕・更新）	34
第 51 条（非常時又は緊急時の対応等）	34
第 52 条（セルフモニタリング）	35
第 53 条（市によるモニタリングの実施）	35
第 54 条（損害の発生）	36
第 7 章 サービス購入料の支払	36
第 55 条（サービス購入料の支払）	36
第 56 条（サービス購入料の改定）	37
第 57 条（サービス購入料の減額）	37
第 8 章 契約の終了	37
第 58 条（契約期間）	37
第 59 条（市の事由による解除）	38
第 60 条（事業者の債務不履行等による解除等）	38
第 61 条（市の債務不履行による解除等）	40

第 62 条（法令変更及び不可抗力）	41
第 63 条（特別措置等によるサービス購入料の減額）	42
第 64 条（引渡日前の解除の効力）	42
第 65 条（引渡日後の解除の効力）	43
第 66 条（契約が解除された場合等の違約金等）	44
第 67 条（保全義務）	46
第 68 条（関係書類の引渡し等）	46
第 69 条（所有権の移転）	46
第 9 章 雑則	46
第 70 条（公租公課の負担）	46
第 71 条（運営会議）	47
第 72 条（金融機関等との協議）	47
第 73 条（財務書類の提出）	47
第 74 条（秘密保持）	47
第 75 条（著作権等）	47
第 76 条（著作権の侵害防止）	48
第 77 条（産業財産権）	48
第 78 条（株式等の発行制限）	48
第 79 条（権利等の譲渡制限）	48
第 80 条（事業者の兼業禁止）	48
第 81 条（遅延利息）	48
第 82 条（要求水準書の変更）	49
第 83 条（管轄裁判所）	49
第 84 条（疑義に関する協議）	49
第 85 条（その他）	49

別 紙

別紙 1	事業日程	51
別紙 2	本事業用地	52
別紙 3	設計業務着手時提出書類.....	53
別紙 4	設計図書	54
別紙 5	着工前及び建中の提出書類.....	55
別紙 6	完成時の提出図書.....	56
別紙 7	事業者等が付保する保険.....	58
別紙 8	不可抗力による損害、損失及び費用の負担割合.....	60
別紙 9	保証書の様式.....	61
別紙 10	業務報告書の構成及び内容	63
別紙 11	サービス購入料の金額と支払スケジュール	66
別紙 12	サービス購入料の減額の基準と方法	67
別紙 13	法令変更による費用の負担割合	68

前 文

倉敷市（以下「市」という。）では、倉敷市中央斎場（倉敷市福田町福田434番地1）（以下「既存施設」という。）の管理運営を行っている。既存施設は、昭和55年4月1日に供用開始し、40年以上経過しており、各所に経年劣化が見られるなど、施設の老朽化が懸念されている。

また、急速な高齢化の進展により、今後さらに死亡者数の増加が予測されるなど、様々な課題を抱えている。

こうしたことから、市では、今後の倉敷市全域における斎場のあり方の基本的な構想を示すとともに、中央斎場の再整備の方針を定め、施設の位置・施設設備の規模・環境保全目標値や望ましい事業手法の検討などを実施し、平成30年3月に「倉敷市中央斎場基本計画」（以下「基本計画」という。）として策定したところである。

市は、倉敷市中央斎場整備運営事業（以下「本事業」という。）を、上記基本計画の内容を踏まえて、既存施設（現斎場）の解体、新たな施設の設計、建設、維持管理、運営について、民間事業者の創意工夫を活用することにより財政負担の縮減及び公共サービスの水準の向上を図ることを目的として実施するべく、市のかかげる「地域密着型PFI」を踏まえて本事業実施に際しては地元事業者と大手事業者の連携や地元経済への貢献について期待し、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成11年法律第117号。以下「PFI法」という。）第7条に基づき、本事業をPFI法が定める「特定事業」として選定した。

市は、本事業に関し、「倉敷市中央斎場施設整備事業 入札説明書」に基づき、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）（その後の改正を含む。）第167条の10の2の規定による総合評価一般競争入札の方式で民間事業者の募集を実施し、最も優れた提案を行った_____グループ（以下「本落札者グループ」という。）を落札者として選定した。

本落札者グループは、市との間において令和2年___月___日付で基本協定（以下「基本協定」という。）を締結し、基本協定の定めるところに従って、本事業遂行のための特別目的会社たる_____（以下「事業者」という。）を設立した。

市及び事業者は、基本協定第6条第1項の定めるところに従い、本事業の実施に関して、以下のとおり合意する。

第1章 用語の定義

(定義)

第1条 本契約において使用する用語の定義は、本文中に特に定義されているものを除き、次のとおりとする。

- (1) 「維持管理業務」とは、施設及びその附帯設備（外構等を含む。）の全部又は一部の性能、効用等の現状を維持し、その機能が十分発揮されるようにするための関連業務及び火葬炉運営に関する業務をいい、要求水準書において維持管理業務の内容として、若しくは維持管理に関する事項として要求された業務又はこれらを上回るサービスとして事業者提案によって本落札者グループから提案された業務並びにこれらの付随関連業務を含むものとする。なお、「維持管理」とは、当該業務を行うことをいう。
- (2) 「維持管理期間」とは、供用開始日から本事業期間満了日までをいう。
- (3) 「建物・設備維持管理企業」とは、_____をいう。
- (4) 「運営業務」とは、施設及びその附帯設備（外溝等を含む。）の全部又は一部をその機能を発揮して供用することの関連業務をいい、要求水準書において運営業務の内容として、若しくは運営に関する事項として要求された業務又はこれらを上回るサービスとして事業者提案によって本落札者グループから提案された業務並びにこれらの付随関連業務を含むものとする。なお、「運営」とは、当該業務を行うことをいう。
- (5) 「運営企業」とは、_____をいう。
- (6) 「運営期間」とは、供用開始日から本事業期間満了日までをいう。
- (7) 「解体・撤去等業務」とは、既存施設（現斎場）を解体し、建材等を撤去することの関連業務（跡地整備業務及びその後の設備等の引渡しを含む。）をいい、要求水準書において解体・撤去等業務の内容として、若しくは既存施設（現斎場）の解体・撤去等及びその跡地整備並びに廃棄物の処分に関する事項として要求された業務又はこれらを上回るサービスとして事業者提案によって本落札者グループから提案された業務並びにこれらの付随関連業務を含むものとする。なお、「解体」、「撤去」、「解体・撤去等」とは、当該業務の全部又は一部を行うことをいい、「解体施設」とは、既存施設（現斎場）のうち、動物炉を除く建築物を整備する際に解体が必要な施設として当該業務の対象となる施設をいう。疑義を避けるため、既存施設（現斎場）における現在の供養塔（霊灰塔）が解体施設に含まれるか否かは事業者提案によるものとすることを確認する。
- (8) 「火葬炉」とは、本施設のうち、入札説明書等において「火葬炉」として整備対象とされた設備（本事業における火葬炉関連業務遂行のための最低限必要とされた設備を含む。）又は事業者提案において「火葬炉」として設計、製作が提案された施設並びにそれらの附帯設備又はこれらに相当する本件工事により

整備された設備をいう。

- (9) 「火葬炉運営企業」とは、_____をいう。
- (10) 「火葬炉企業」とは、_____をいう。
- (11) 「完成図書」とは、第30条第4項の定めるところに従って市に提出された書類及び図面（その後の変更を含む。）をいう。
- (12) 「既存施設」又は「既存施設（現斎場）」とは、本契約の前文に定義されたところの、本契約締結日現在において別紙2に記載される本事業用地に存在する、同別紙に概要が示された倉敷市中央斎場の施設及びその附帯設備をいう。
- (13) 「供用開始予定日」とは、運營業務が開始されることが予定された日をいい、事業スケジュールのとおりに予定する。
- (14) 「供用開始日」とは、運營業務が開始された日をいう。
- (15) 「建基法」とは、建築基準法（昭和25年法律第201号）をいう。
- (16) 「建設企業」とは、_____をいう。
- (17) 「工事請負人」とは、建設企業及び火葬炉企業の総称又はそのいずれかをいう。
- (18) 「工事監理企業」とは、_____をいう。
- (19) 「工事監理業務」とは、施設整備業務のうち、本件工事に係る工事監理の関連業務をいい、要求水準書において工事監理業務の内容として、若しくは工事監理に関する事項として要求された業務又はこれらを上回るサービスとして事業者提案によって本落札者グループから提案された業務並びにこれらの付随関連業務を含むものとする。なお、「工事監理」とは、当該業務を行うことをいう。
- (20) 「個人情報」とは、特定個人情報（行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号）第2条第8項に定義された意味を有する。）を含め、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）第2条第1項に定義された意味とする。
- (21) 「サービス購入料」とは、市が、サービス購入料債権に係る債務の弁済として、事業者に対して支払う金銭をいう。
- (22) 「サービス購入料債権」とは、本事業に係る対価を請求する権利として、本契約に基づき、事業者が市に対して有する一体不可分の債権をいう。
- (23) 「事業者提案」とは、本落札者グループ又は事業者が本事業の入札手続において市に提出した提案書類、市からの質問に対する回答及び本契約締結までに提出したその他一切の提案をいう。
- (24) 「事業スケジュール」とは、第4条の定めるところに従い、別紙1（事業日程）記載の日程に従って行われるべき本事業の業務遂行スケジュールをいう。
- (25) 「事業年度」とは、各暦年の4月1日に始まり、翌年の3月31日に終了する1年間をいう。ただし、初年度は本契約についてPFI法第12条の規定に基づき、議会の議決が得られた日又は市と事業者が合意により変更した日から最初に到来する3月31日までの期間をいう。
- (26) 「施設供用業務」とは、維持管理業務及び運營業務の総称又はそのいずれかを

いう。

- (27) 「施設供用業者」とは、建物・設備維持管理企業、運営企業及び火葬炉運営企業の総称又はそのいずれかをいう。
- (28) 「施設整備業務」とは、本施設を整備することの関連業務をいい、要求水準書において施設整備業務の内容として、若しくは本施設の施設整備に関する事項として要求された業務又はこれらを上回るサービスとして事業者提案によって本落札者グループから提案された業務並びにこれらの付随関連業務を含むものとする。
- (29) 「施設整備費」とは、別紙 11（サービス購入料の金額と支払スケジュール）に定めるサービス購入料A及びBの合計をいう。
- (30) 「生活環境影響」とは、騒音、振動、地盤沈下、地下水の断絶、大気汚染（粉じん発生を含む。）、水質汚染、悪臭、電波障害（地上波デジタル放送電波を含む。）、交通渋滞等その他の本事業が近隣住民の生活環境に与える影響をいう。
- (31) 「整備計画書」とは、第10条第4項、第21条第1項又は第24条第2項の定めるところに従って市に対して提出された要求水準書の定める設計計画書、仮設計画書、総合施工計画書若しくは工事監理計画書のいずれか又はこれらを総称したものをいう。
- (32) 「設計企業」とは、_____をいう。
- (33) 「設計業務」とは、施設整備業務における火葬炉及びそれ以外の本施設をそれぞれ設計することの関連業務並びに解体・撤去等業務に係る本件工事を設計することの関連業務をいい、要求水準書において設計業務の内容として、若しくは設計に関する事項として要求された業務又はこれらを上回るサービスとして事業者提案によって本落札者グループから提案された業務並びにこれらの付随関連業務を含むものとする。なお、「設計」とは、当該業務を行うことをいう。
- (34) 「設計図書」とは、第12条及び第13条の定めるところに従って市の承諾が得られた書類並びに図面その他の設計に関する図書（第14条の定めるところに従って変更された場合には、当該変更された設計図書）をいう。
- (35) 「地自法」とは、地方自治法（昭和22年法律第67号）をいう。
- (36) 「入札説明書等」とは、本事業に係る入札説明書、要求水準書、落札者決定基準、様式集、及びこれらの公表後に当該資料に関して受け付けられた質問に対する市の回答（その後の修正を含む。）の総称をいう。
- (37) 「引渡日」とは、第40条の定めるところに従って本施設の所有権が移転された日をいう。
- (38) 「引渡予定日」とは、本施設の所有権を市に移転することを予定する日をいい、事業スケジュールのとおりに予定する。
- (39) 「不可抗力」とは、暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、落雷、地滑り、落盤、火災、有毒ガスの発生、騒乱、暴動、戦争、テロその他市及び事業者の責めに帰

すことのできない自然的又は人為的な事象であって、取引上又は社会通念上要求される一切の注意や予防措置を講じても、損害を防止できないものをいい、本件施設に直接物理的な影響がなくとも、落雷等を原因とする送電線の破断による送電の停止などの間接的事由も含むものとする。疑義を避けるため、「不可抗力」とは、本契約の締結後に発生する事象に限られ、本契約の締結時に存在する土地の瑕疵及び埋蔵物の存在は含まれないことを確認する。

- (40) 「法令」とは、本事業又は事業者に適用がある法律、政令、規則、命令、省令、条例、通達、行政処分、通達、行政指導若しくはガイドライン、又は裁判所の確定判決、決定若しくは命令、仲裁判断、又はその他の公的機関の定める一切の規定、判断若しくはその他の措置等を総称する。なお、本契約上で表示される特定の「法令」は、別段の定義がなされている場合を除き、いずれもその適用時点までの改正が当然に含まれ、また、「法令変更」は、法律・政令・規則・命令・省令・条例の公布、行政処分・通達・行政指導・ガイドラインの発出、裁判所の判決・決定・命令・仲裁判断の宣告その他公的機関の定める一切の規定・判断・措置等が本事業又は事業者に適用されることが予見可能になった時点でなされたものとする。
- (41) 「法定率」とは、政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和24年法律第256号）第8条第1項の規定に基づき財務大臣が決定する率をいう。
- (42) 「本件工事」とは、設計図書に従った本施設の建設、外構等の整備、機器・器具及び備品の設置、火葬炉の設置、既存施設の解体・撤去等に係る各工事及びその他の施設整備業務を個別に又は総称していう。
- (43) 「本件工事期間」とは、本件工事の着工日から解体・撤去等業務に係る本件工事の完了までをいう。
- (44) 「本件施設」とは、倉敷市中央斎場、駐車場及びその他の入札説明書等において整備対象とされた施設並びにそれらの附帯設備及びこれらに相当する本件工事により整備された施設及び附帯設備をいう。疑義を避けるため、供養塔（霊灰塔）が本件施設に含まれるか否かは事業者提案によるものとすることを確認する。
- (45) 「本事業期間」とは、本契約成立日から本契約の終了する日までをいう。
- (46) 「本事業用地」とは、本事業が実施される敷地・土地をいい、その概要が別紙2（本事業用地）に記載されるものをいう。
- (47) 「本施設」とは、本件施設のうち、倉敷市中央斎場及びその他の整備計画書において引渡予定日までに整備し引き渡すとされた施設及び附帯設備をいう。疑義を避けるため、供養塔（霊灰塔）が本施設に含まれるか否かは事業者提案によるものとすることを確認する。
- (48) 「本施設工事期間」とは、本件工事の着工日から引渡日までをいう。
- (49) 「本条例」とは、地自法第244条の2第1項に基づき本施設の設置及び管理に関して市が制定する条例をいう。

- (50) 「埋蔵物」とは、文化財保護法（昭和25年法律第 214 号）第 2 条第 1 項第 4 号所定の「記念物」として同法に従って保護を受ける「文化財」に該当する貝づか、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で学術上価値の高いものをいう。
- (51) 「要求水準書」とは、入札説明書の附属資料の一部であり、本事業の業務範囲の実施について、市が事業者に要求する業務水準を示す図書（その後の修正並びに要求水準書に関する質問に対する市の回答として公表された回答結果を含む。）をいう。
- 2 本契約において使用する用語のうち、要求水準書に定義されたものは、前項若しくは本文中に特に定義されている場合又は文脈上別異に解すべき場合でない限り、かかる要求水準書に定義された意味を本契約においても有するものとする。

第 2 章 総則

（目的及び解釈）

- 第 2 条 本契約は、市及び事業者が相互に協力し、本事業を円滑に実施するために必要な一切の事項を定めることを目的とする。
- 2 事業者は、法令のほか、本契約、入札説明書等及び事業者提案に従って本事業を遂行するものとする。
- 3 本契約、入札説明書等及び事業者提案の間に齟齬がある場合、本契約、入札説明書等、事業者提案の順にその解釈が優先するものとし、本契約、入札説明書等又は事業者提案の各書類を構成する書類間において齟齬がある場合には、作成又は締結の日付が後のものが優先するものとする。ただし、事業者提案が要求水準書に示された水準をより厳格な又は望ましい水準を規定している場合は、事業者提案が要求水準書に優先するものとする。
- 4 本契約における各条項の見出しは参照の便宜のためであり、本契約及び本契約の解釈に影響を与えるものでない。
- 5 本契約における市の承諾は確認のためのものであり、市は、いかなる場合でも、本契約に別段の定めがない限り、本契約に基づき市が行った承諾を理由として本事業の実施の全部又は一部について何ら責任を負担しないものとし、事業者はいかなる請求もできないものとする。

（公共性及び民間事業の趣旨の尊重）

- 第 3 条 事業者は、本事業が公共施設の整備事業としての公共性を有することを十分

理解し、本事業の実施に当たっては、その趣旨を尊重するものとする。

- 2 事業者は、市の求めるところに応じて、本事業に係る市の監査に対し、必要な書類その他の資料の作成その他の協力を行うものとする。
- 3 市は、本事業が民間事業者によって実施されることを十分理解し、その趣旨を尊重するものとする。

（事業日程）

第4条 本事業は、事業スケジュールに従って実施されるものとする。

（事業場所）

第5条 事業者は、本件工事期間中、本事業の遂行のために必要な範囲内で、本事業用地に立ち入り、測定その他の調査を行い、掘削その他の必要な行為を行うほか、本事業用地を利用することができる。

- 2 事業者は、本事業用地につき、善良なる管理者の注意をもって管理を行うものとする。
- 3 本件工事において、事業者の責めに帰すべき事由によらず本事業用地の埋蔵物又は地盤沈下（入札説明書等及び本事業用地の現場確認の機会から客観的かつ合理的に推測できないものに限る。）に起因する損害、損失又は費用が生じた場合には、市が当該損害、損失及び費用を負担する。ただし、第15条の定めるところに従って市が増加費用を負担して対策が講じられている場合は、この限りでない。
- 4 事業者は、第40条の定めるところに従ってなされる引渡し前の本件工事の目的物につき、担保権の設定その他の処分行為を行わないものとする。

（本事業の概要）

第6条 本事業は、要求水準書所定の業務その他これらに付随し、関連する一切の業務により構成されるものとする。なお、本件施設の大規模修繕（要求水準書に定義される大規模修繕をいう。以下同じ。）は本事業に含まれないものとする。

- 2 本件施設の名称は、市が定める権利を有するものとする。

（事業者の資金調達）

第7条 本契約に別段の定めがある場合を除き、本契約上の事業者の義務の履行に関連する一切の費用は、全て事業者が負担するものとし、また、本事業に関する事業者の資金調達は、全て事業者が自己の責任において行うものとする。

（許認可及び届出等）

第8条 事業者は、市が行うべきものを除き、本契約上の事業者の義務を履行するために必要となる一切の許認可の取得及び届出等を、各種申請等の手続に係る関係機関との事前協議を含め、自己の責任及び費用負担において行うものとする。

- 2 事業者は、本件工事に関して建基法に基づく建築確認申請を行う場合、事前に、市に対して当該申請の内容を説明し、また、建築確認を取得したときには、直ちに市に対してその旨を報告するものとする。
- 3 前項に定める場合のほか、事業者は、各種申請等の手続に係る関係機関との協議内容を市に報告するとともに、市が請求したときには、直ちに各種許認可等の書類の写しを市に提出するものとする。
- 4 事業者が市に対して協力を求めた場合、市は、事業者による第1項に定める許認可の取得及び届出等に必要な資料の提出その他について協力するものとする。
- 5 市が本事業に関し許認可を取得し又は届出を行う必要があり、事業者に対して協力を求めた場合、事業者は、市による許認可の取得及び届出等に必要な資料の提出その他について市の求めるところに従って協力するものとする。

(契約の保証)

第9条 事業者は、本契約の締結と同時に、次の各号のいずれかに掲げる保証を付さなければならない。ただし、第5号の場合においては、履行保証保険契約の締結後、直ちにその保険証券を市に寄託しなければならない。

- (1) 契約保証金の納付
 - (2) 契約保証金に代わる担保となる国債及び地方債の提供
 - (3) 本契約による債務の不履行により生ずる損害金の支払いを保証する市が確実と認める金融機関等又は保証事業会社（公共工事の前払い金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証事業会社をいう。以下同じ。）の保証
 - (4) 本契約による債務の履行を保証する公共工事履行保証証券による保証
 - (5) 本契約による債務の不履行により生ずる損害をてん補する履行保証保険契約の締結
- 2 前項の保証に係る契約保証金の額、保証金額又は保険金額（第5項において「保証の額」という。）は、契約金額（施設整備費から割賦金利を控除した額に消費税及び地方消費税を加算した金額とする。本条において同じ。）の100分の10以上の金額（以下「契約保証金額」という。）としなければならない。
 - 3 事業者が第1項第3号から第5号までのいずれかに掲げる保証を付す場合は、当該保証は第66条第3項各号に規定する者による契約の解除の場合についても保証するものでなければならない。
 - 4 第1項の規定により、事業者が同項第2号又は第3号に掲げる保証を付したときは、当該保証は契約保証金に代わる担保の提供として行われたものとし、同項第4号又は第5号に掲げる保証を付したときは、契約保証金の納付を免除する。
 - 5 契約金額の変更があった場合には、保証の額が変更後の契約金額の100分の10に達するまで、市は、保証の額の増額を請求することができ、事業者は、保証の額の減額を請求することができる。ただし、当該増減に係る契約金額が原契約金額の3割以内の場合においては、この限りでない。
 - 6 第1項第5号の場合、事業者は、本契約の締結と同時に、本件工事に関し、事業

者又は市を被保険者として、契約保証金額を保証金額とした履行保証保険契約を自ら締結し又は工事請負人をして締結させることができる。なお、かかる契約締結に当たり、事業者は、自ら又は工事請負人をして保険会社と締結する契約最終案を市に提出し、その確認を得るものとする。

- 7 前項の定めるところに従って履行保証保険契約を締結する場合において、事業者を被保険者とする履行保証保険契約を締結するときは、事業者は、自らの負担により、市のために、保険金請求権に、本契約に基づく違約金支払債務及び損害賠償債務を被担保債務とする質権を設定するものとする。
- 8 事業者は、第6項の定めるところに従って履行保証保険契約が締結された場合において前項に基づいて事業者が自らを被保険者とする履行保証保険契約を工事請負人に締結させたときは、第1項ただし書の定めにかかわらず、事業者は、前項に基づく質権を設定した後速やかに係る保険証券の写しを市に提出すれば足りるものとする。

第3章 設計

(設計業務)

- 第10条 事業者は、本契約締結後、本契約、入札説明書等及び事業者提案に従って、速やかに、設計業務を開始するものとする。
- 2 事業者は、法令を遵守のうえ、整備計画書に従って、本契約、入札説明書等及び事業者提案に基づき、設計業務を実施するものとする。ただし、第12条の定めるところに従って基本設計に係る設計図書について市の承諾が得られない限り、実施設計に係る設計業務に着手できないものとする。
- 3 事業者は、設計業務の実施に当たり、入札説明書等及び事業者提案に基づき、本件工事に係る建基法第5条の6第1項に規定する設計業務についての責任者を含む設計体制を定めるものとする。
- 4 事業者は、基本設計及び実施設計に関し、入札説明書等及び事業者提案に基づき、前項の定めるところに従って定められた設計体制（各人員の名称及び保有資格その他必要事項を記載する。）を明記した、詳細工程表を含む設計計画書を作成して市の承諾を得るものとし（市は当該承諾を理由として本事業の実施の全部又は一部について何ら責任を負担するものではない。）、かつ、基本設計に係る設計業務着手時に、別紙3（設計業務着手時提出書類）第1項所定の各書類を、実施設計に係る設計業務着手時に、同別紙第2項所定の各書類を、市に対して提出するものとする。
- 5 事業者は、入札説明書等及び事業者提案に基づき、設計業務の進捗管理を自己の責任で行い、少なくとも月1回程度以上で定期的に又は市の請求がある場合には随時、設計業務の進捗状況に関して市に報告するとともに、市が求めた場合その他必要があるときは、設計業務の内容について市と協議するものとする。

(第三者による実施)

第11条 事業者は、事業者提案に従い、火葬炉を除いた本件施設に係る設計業務を設計企業に、また、火葬炉に係る設計業務を火葬炉企業にそれぞれ行わせるものとする。

2 事業者は、事業者提案において提案されていない態様での設計業務の委任又は請負をしてはならない。ただし、合理的な理由がある場合に限り、当該委任又は請負を受ける者の商号、所在地その他市が求める事項を市に事前に通知したうえ、市の事前の承諾を得た場合はこの限りでない。

3 事業者は、設計企業及び火葬炉企業が事業者提案に従って自己が行うべき業務（一部に限る。）を設計企業及び火葬炉企業以外の第三者に委任し又は請け負わせる場合、事前に当該第三者の商号、所在地その他市が求める事項を市に届け出るものとする。当該第三者が設計業務の一部を自己以外の第三者に委任し又は請け負わせる場合も同様とする。

4 設計企業、火葬炉企業その他設計業務に関して事業者又は設計企業若しくは火葬炉企業が使用する一切の第三者に対する設計業務の委任又は請負は全て事業者の責任において行われるものとし、設計企業、火葬炉企業その他設計業務に関して事業者又は設計企業若しくは火葬炉企業が使用する一切の第三者の責めに帰すべき事由は、全て事業者の責めに帰すべき事由とみなして、事業者が責任を負うものとする。

(基本設計の完了)

第12条 事業者は、事業スケジュール及び整備計画書に従って、基本設計を完了するものとし、基本設計が完了次第、要求水準書その他の適用のある入札説明書等に基づき、基本設計完了届とともに本件工事に係る別紙4（設計図書）第1項所定の書類又は図面を作成したうえ、市に対して提出し、その承諾を得るものとする。

2 市は、前項に定めるところに従って提出された書類又は図面が、本契約、入札説明書等又は事業者提案の定めるところに従っていないと判断する場合、事業者に対して、当該判断をした箇所及び理由を示したうえ、事業者の費用負担において、その修正を求めることができ、事業者はこれに従うものとする。

3 前項の場合を除くほか、市は、書類又は図面の提出後相当の期間内において、事業者に対し、基本設計に係る設計図書の内容を承諾した旨を通知する。市は当該承諾を理由として本事業の実施の全部又は一部について何ら責任を負担するものではない。

(実施設計の完了)

第13条 事業者は、事業スケジュール及び整備計画書に従って、実施設計を完了するものとし、実施設計が完了次第、要求水準書その他の適用のある入札説明書等に基づき、実施設計完了届とともに本件工事に係る別紙4（設計図書）第2項所定の書

類又は図面を作成したうえ、市に対して提出し、その承諾を得るものとする。

- 2 市は、前項に定めるところに従って提出された書類又は図面が、本契約、入札説明書等、基本設計に係る設計図書又は事業者提案の定めるところに従っていないと判断する場合、事業者に対して、当該判断をした箇所及び理由を示したうえ、事業者の費用負担において、その修正を求めることができ、事業者はこれに従うものとする。
- 3 前項の場合を除くほか、市は、書類又は図面の提出後相当の期間内において、事業者に対し、実施設計に係る設計図書の内容を承諾した旨を通知する。市は当該承諾を理由として本事業の実施の全部又は一部について何ら責任を負担するものではない。

(設計の変更)

第14条 市は、必要があると認める場合、事業者に対して、本件施設の設計変更を請求することができる。事業者は、当該請求を受領した日から14日以内に、当該設計変更の当否及び事業者の本事業の実施に与える影響を検討したうえ、市に対してその結果（当該設計変更による工期の変更の有無及び当該設計変更の事業者提案の範囲の逸脱の有無についての検討結果を含む。）を通知するものとする。市は、当該設計変更が工期の変更を伴わず、かつ事業者提案の範囲を逸脱しない場合、当該事業者の検討結果を踏まえて当該設計変更の当否を最終的に決定したうえ、事業者に対して通知するものとし、事業者は、通知されたところから従い設計変更を行うものとする。

- 2 事業者は、設計変更の必要性及びそれが事業者の本事業の実施に与える影響を検討し、当該検討結果を市に対して通知し、かつ市の事前の承諾を得たうえで、本件施設の設計変更を行うことができる。ただし、当該設計変更が市の責めに帰すべき事由によるときは、設計変更の内容について協議したうえ、市はこれを承諾するものとする。
- 3 前2項の定めるところに従って設計変更が行われた場合で、当該設計変更により市又は事業者において損害、損失又は費用（本事業を遂行するに当たり当該設計変更により事業者において生ずる追加的な費用を含む。）が発生したときは、市及び事業者は、その負担について、以下の各号に定めるところに従うものとする。ただし、当該設計変更により事業者において本事業に要する費用の減少が生じたときは、市は、事業者と協議したうえ、サービス購入料の支払額を減額することができる。なお、第3号及び第4号の場合、第62条第1項ないし第3項の規定は、適用されない。
 - (1) 当該設計変更が市の責めに帰すべき事由による場合、市がこれを負担するものとし、サービス購入料を増額することなどにより事業者に対して支払うものとする。
 - (2) 当該設計変更が事業者の責めに帰すべき事由による場合、事業者がこれを負担

するものとし、その負担の方法については、市と事業者との間の協議によりこれを定めるものとする。

(3) 当該設計変更が法令変更による場合、別紙13（法令変更による費用の負担割合）に定めるところに従って、市又は事業者がこれを負担するものとし、その負担の方法については、市と事業者との間の協議によりこれを定めるものとする。

(4) 当該設計変更が不可抗力による事由に基づくものである場合、別紙8（不可抗力による損害、損失及び費用の負担割合）に定めるところに従って、市及び事業者がこれを負担するものとし、その負担の方法については、市と事業者との間の協議によりこれを定めるものとする。

4 第1項の定めるところに従って市が事業者に対して請求した設計変更又は第2項の定めるところに従って事業者が行おうとする設計変更が、工期の変更を伴い又は事業者提案の範囲を逸脱する場合、本契約の他の規定にかかわらず、市は、事業者との間において当該設計変更の当否、工期の変更の当否及び供用開始予定日の変更の当否について協議することができる。当該協議の結果、当該設計変更等を行うことが合意されたときは、事業者は、その合意されたところに従って設計変更を行うものとする。

5 前項の協議においては、当該変更により市又は事業者において生ずる損害、損失又は費用（本事業を遂行するに当たり事業者において当該変更により生ずる追加的な費用を含む。）の支払の方法及び当該変更により事業者において生ずる本事業に要する費用の減少に伴うサービス購入料の減額についても合意することができる。ただし、市又は事業者において生ずる損害、損失又は費用（本事業を遂行するに当たり事業者において当該変更により生ずる追加的な費用を含む。）の負担については、第3項第1号及び第2号の定めるところに従うものとする。

6 前2項にかかわらず、第1項の定めるところに従って市が事業者に対して請求した設計変更又は第2項の定めるところに従って事業者が行おうとする設計変更が、工期の変更を伴い又は事業者提案の範囲を逸脱する場合で、それらの変更が不可抗力又は法令変更に基づくものであるときは、市及び事業者は、第62条に定めるところに従うものとする。

第4章 本件工事

第1節 総則

（事前調査）

第15条 事業者は、自己の責任と費用負担において、市の事前の承諾を得たうえ、解体施設及び本事業用地につき、要求水準書その他の適用のある入札説明書等の定め

るところに従い、事業者提案に基づき、設計業務及び本件工事に必要な調査（事業者がなすべきものとして要求水準書の定める着工前の性能試験、解体施設の使用材料等の汚染物質調査（アスベスト・ダイオキシン類）及びテレビ電波障害調査のほか、事業者の責任において事業者の判断で適切に行われるべきものとして要求水準書の定める地質調査、測量調査その他の本事業用地の調査、解体施設の調査及び本件施設の建築準備調査等を含む。本条において以下「事業者事前調査」という。）を行うものとする。なお、着工前の現況調査として行われる要求水準書の定める性能試験の実施要領とその結果報告については、第29条第1項が準用されるものとする。

- 2 事業者は、事業者事前調査の結果に基づき、設計業務及び本件工事を実施するものとする。なお、事業者事前調査の結果、解体施設において汚染物質の使用、曝露等が認められた場合における処理等は、第26条の定めに従う。
- 3 事業者事前調査の誤り又は懈怠に起因して市又は事業者において生ずる損害、損失又は費用（本事業を遂行するに当たり事業者において生ずる追加的な費用を含む。）は、事業者がこれを負担するものとし、その負担の方法については、市と事業者との間の協議により定めるものとする。
- 4 事業者事前調査を行った結果、当該事業者事前調査に誤り又は懈怠がないにもかかわらず、事業者において設計業務又は本件工事に要する費用又は本事業を遂行するに当たり事業者において生ずる追加的な費用が増加する場合で、当該費用の増加の原因が入札説明書等及び本事業用地の現場確認の機会から客観的かつ合理的に推測できないものであるときは、合理的な範囲において市がこれを負担するものとし（ただし、解体施設に含まれる汚染物質（アスベスト・PCB・ダイオキシン類）の処分・保管に係る費用について、解体施設の設計図書、汚染物質調査（アスベスト・ダイオキシン類）その他入札説明書等から、合理的に想定される誤差の範囲を超えたものに限る。）、市は、市と事業者との間の協議により決定される方法に従って、事業者に対して支払うものとする。なお、市及び事業者は、当該協議に際して、設計変更及び工期又は供用開始予定日の変更についても協議することができ、当該協議によりこれを変更することができる。
- 5 事業者事前調査の実施如何にかかわらず、事業者は、テレビ電波障害の調査を本件工事の着工前及び本施設の完成後に行うものとし、本工事期間中を含め、本施設によるテレビ電波障害が発生した場合、事業者は、本施設建設に伴い近隣のテレビ電波障害が発生した場合は、事業者によりテレビ電波障害防除施設を設置するものとする。

（本件工事に伴う近隣対策等）

第16条 事業者は、本契約の締結日から本件工事の着工日までの間の必要な時期において可能な限り早期に、近隣住民に対し本事業に係る事業者の作成する事業計画の説明を行い、近隣住民の了解を得るよう努めるものとする（本条において以下「近

隣説明」という。)

- 2 事業者は、本件工事の実施により生じる生活環境に与える影響を勘案したうえ、合理的に要求される範囲において近隣対応（本件工事の内容を近隣住民に対して周知させること、本件工事の作業時間について近隣住民の了解を得ること、及び車両の交通障害、騒音、振動その他工事に伴う悪影響を最小限度に抑えるための対策を含むが、これに限られない。本条において以下「近隣対策」といい、「近隣説明」と併せて「近隣対策等」という。）を実施するものとする。
- 3 事業者は市に対して、前2項に定める近隣対策等の実施について、事前に実施の内容を報告し、事後にその結果を報告するものとする。
- 4 近隣対策等により事業者が生じた損害、損失又は費用（本事業を遂行するに当たり事業者において当該近隣対策等の実施により生ずる追加的な費用を含む。）については、事業者がこれを負担するものとする。ただし、入札説明書等において市が設定した条件に直接起因して事業者において生じた損害、損失又は費用（本事業を遂行するに当たり事業者において当該近隣対策等の実施により生ずる追加的な費用を含む。）については、市がこれを負担するものとし、その負担の方法については、市と事業者との間において協議により決定するものとする。
- 5 事業者は、近隣対策等の不調を理由として事業者の作成する事業計画を変更することはできない。ただし、市の事前の承諾がある場合はこの限りでない。また、市は、事業者が更なる近隣対策等の実施によっても近隣住民の了解が得られないことを明らかにした場合に限り、事業者の作成する事業計画の変更を承諾する。
- 6 市は、必要があると認める場合には、事業者が行う近隣対策等に協力する。

（本件工事期間中の保険）

第17条 事業者は、自己又は工事請負人をして、本件工事期間中、別紙7（事業者等が付保する保険）第1項及び第2項に記載されるところに従って、保険に加入し、又は加入させるものとする。

第2節 工事の施工

（本件工事の施工）

第18条 事業者は、本件工事の施工に当たり、入札説明書等及び事業者提案に基づき、本件工事に必要な有資格者を含む工事実施体制を定め、第13条第1項ないし第3項の定めるところに従って実施設計に係る設計図書につき市の承諾を取得し、かつ本件工事に要する各種申請手続その他必要となる手続が完了した後速やかに、本件工事を開始するものとする。

- 2 事業者は、日本国の法令を遵守のうえ、本契約、入札説明書等、事業者提案及び設計図書に基づき、事業スケジュール及び整備計画書に従い、本件工事を施工するものとする。

(第三者による施工)

第19条 事業者は、事業者提案に従い、本件工事を工事請負人に請け負わせるものとする。

- 2 事業者は、事業者提案にない本件工事の全部又は大部分（主要なものを含む）の委任又は請負をしてはならない。ただし、当該委任を受ける者又は請負者の商号、所在地その他市が求める事項を市に事前に通知したうえ、市の事前の承諾を得た場合はこの限りでない。
- 3 事業者は、本件工事の一部（主要なものを除く）を工事請負人以外の第三者に委任し、又は請け負わせる場合、事前に当該第三者の商号、所在地その他市が求める事項を市に届け出るものとする。工事請負人又は当該第三者が本件工事の一部を自己以外の第三者に委任し又は請け負わせる場合も同様とするが、法令で定める施工体制台帳の提出による報告をもって当該届出に代えることができる。
- 4 工事請負人その他本件工事に関して事業者又は工事請負人が使用する一切の第三者に対する本件工事の委任又は請負は全て事業者の責任において行うものとし、工事請負人その他本件工事に関して事業者又は工事請負人が使用する一切の第三者の責めに帰すべき事由は、全て事業者の責めに帰すべき事由とみなして、事業者が責任を負うものとする。

(事業者の施工責任)

第20条 仮設、施工方法、工事用地借用その他本件工事を完了するために必要な一切の手段については、事業者が自己の責任において定めて措置するものとする。

- 2 事業者は、本件工事期間中、本件工事に関して必要な工事用電気、水道、ガス等を自己の責任及び費用負担において調達するものとする。市は、合理的な範囲においてこれに協力するものとする。

(工事施工計画)

第21条 事業者は、本件工事の着工前に、詳細工程表を含む総合施工計画書等を作成し、別紙5（着工前及び建中の提出書類）第1項に列挙される図書とともに、市に対して提出するものとする。その作成及び提出に当たっては、同別紙に記載されるところに従わなければならない。

- 2 事業者は、事業スケジュールを遵守し、前項の定めるところに従って市に対して提出した総合施工計画書その他整備計画書に従って本件工事を遂行するものとする。

(工事施工報告)

第22条 事業者は、本件工事期間中、別紙5（着工前及び建中の提出書類）第2項に列挙される図書をそれぞれ適時に作成のうえ、遅滞なく、市に対して提出するものとする。その作成及び提出に当たっては、同別紙に記載されるところに従わなければならない。

ばならない。また、市が要請したときは、工事施工の事前説明及び事後報告を行うものとする。

- 2 市は、事業者が行う工程会議に立会うことができるとともに、何時でも随時、工事現場での施工状況の確認を行うことができる。
- 3 事業者は、本件工事期間中、工事現場に常に工事記録を整備するものとする。
- 4 市は、事業者に対して、建設業法（昭和24年法律第100号）第24条の7に規定する施工体制台帳及び施工体系図に係る事項について報告を求めることができる。

第3節 備品等整備

（備品等の整備）

- 第23条 事業者は、要求水準書に従い、事業者提案に基づき備品等整備業務を行い、要求水準書及び事業者提案に従った施設供用業務を行うために必要な各種備品を制作又は調達し、供用開始日に間に合わせるよう、引渡予定日までに本施設に設置しなければならない。リース方式で調達する場合、本事業期間中の適切なサービス水準の維持・向上や業務遂行への影響等の観点から、リース契約期間や更新を検討し、市の承諾を得るものとする。この場合でも、本事業期間終了時における市への円滑な引継ぎが要求水準を満たす状態でなされるものとし、市の承諾を得たことは当該引継ぎに係る事業者の義務を如何なる意味でも免責しないものとする。
- 2 前項の定めるところに従って事業者により制作又は調達され本施設に設置された設備等の全ての所有権は、リース方式により調達した備品等を除き、第40条の定めるところに従って実施される本施設の引渡しに伴い、市に移転するものとする。なお、備品等については、要求水準書に基づき倉敷市物品管理規則に従って市の備品登録シールを貼付けることによる明認方法を施すものとする。
 - 3 事業者は、要求水準書に従い、前各項の定めるところに従って本施設に設置される各種備品等について、品名、規格、金額（単価）、数量等の細目その他事業者が市と協議のうえで定める様式及び内容の備品台帳を作成して個々に記録し、引渡予定日までに、各備品等に係る修理・交換に係る修繕・更新計画表を添えて市に提出しなければならない。
 - 4 前各項の定めるところに従うほか、事業者は、事業者が実施する施設供用業務に係る資機材を、備品等整備業務の一環として自己の費用と責任で調達し、本施設の供用開始予定日までに本施設に準備するものとする。

第4節 工事監理

（工事監理）

- 第24条 事業者は、要求水準書及び事業者提案に従い、工事監理業務を工事監理企業に行わせるものとし、本件工事の着工前に、建基法第5条の6第4項及び建築士法

（昭和25年法律第202号）に規定する工事監理者を設置せしめ、本件工事期間中これを維持して工事監理を行わせ、第31条に基づく市に対する完成確認報告においてこれを工事監理者に行わせるものとする。

- 2 事業者は、工事監理業務着手前に詳細工程表を含む工事監理計画書を作成し、市に提出して承諾を得る。事業者は、市の承諾を得た当該工事監理計画書に基づき、工事監理業務を実施する。
- 3 事業者は、本件工事期間中、毎月、本件工事の工事監理の状況について工事監理者の作成した監理報告書（監理日報、打合せ記録、主な工事内容、工事進捗状況、器材・施工検査記録、各種チェック資料及びその他市の求める内容を含むものとする。）を市に対して提出し、市の承諾を得るものとする。
- 4 事業者は、前項の報告に加え、市の求めるところに従って、工事監理者をして工事監理の状況について随時報告させるものとする。
- 5 事業者は、市の別途発注に係る第三者の施工する他の工事又は市の別途発注に係る第三者の履行する既存施設（現斎場）に係る業務が施工上密接に関連する場合において、工事期間、工事区分、光熱水費の負担、施工時間その他調整の必要があるときは、その調整を行うものとする。この場合においては、事業者は、市又は市が指定する第三者と協議の上、市の調整に従い、市又は第三者の行う工事の円滑な施工並びに既存施設（現斎場）の円滑な運営に協力しなければならない。

（第三者による実施）

第25条 事業者は、事業者提案に従い、工事監理業務を工事監理企業に委任するものとする。

- 2 事業者は、事業者提案において提案されていない態様での工事監理業務の委任をしてはならない。ただし、合理的な理由がある場合に限り、当該委任を受ける者の商号、所在地その他市が求める事項を市に事前に通知したうえ、市の事前の承諾を得た場合はこの限りでない。
- 3 事業者は、工事監理企業が事業者提案に従って行う工事監理業務（一部に限る。）を工事監理企業以外の第三者に委任する場合、事前に当該第三者の商号、所在地その他市が求める事項を市に届け出るものとする。当該第三者が行う業務を当該第三者が自己以外の第三者に委任する場合も同様とする。
- 4 工事監理企業その他工事監理業務に関して事業者又は工事監理企業が使用する一切の第三者に対する工事監理業務の委任は全て事業者の責任において行われるものとし、工事監理企業その他工事監理業務に関して事業者又は工事監理企業が使用する一切の第三者の責めに帰すべき事由は、全て事業者の責めに帰すべき事由とみなして、事業者が責任を負うものとする。

第5節 解体・撤去等

（解体・撤去等）

第26条 事業者は、要求水準書及び事業者提案に基づき、事業スケジュール及び整備計画書に従って、次の各号の定めに従って解体・撤去等業務を遂行するものとする。

- (1) 事業者は、既存施設に係る既存建築物汚染物質調査（アスベスト・ダイオキシン類）その他事業者事前調査の結果に基づき、調査報告書（建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法、平成12年法律第104号）に基づき市に報告が必要な事の報告を含む。）を作成し、市に提出するとともに、かかる事業者事前調査の結果に基づき解体計画を策定し、第21条第1項の定めるところに従って市に提出する総合施工計画書等及びリサイクル計画書を作成し、解体・撤去等業務に係るものとして市と協議の上で解体・撤去等業務に係る本件工事の施工前の適切な時期に提出する。
 - (2) 事業者は、解体・撤去等業務の実施に当たり、市と協議の上で解体施設の解体・撤去等を行い、アスベスト・PCB使用部分及びダイオキシン類含有部分を含め、廃棄物等（市が指示した物品を含む。）を関係法令及び法令適用基準等を遵守して自己の費用と責任で適正に処理・処分するものとする。
 - (3) 事業者事前調査の結果、解体施設において入札説明書等から合理的に想定できない汚染物質（未調査のPCB等のみならず、入札説明書等から合理的に想定できない範囲外のアスベスト及びダイオキシン類を含む。）の使用、曝露等が認められた場合は、事業者は、市と協議を行い、関係法令及び法令適用基準等に定められた方法により、適切に処分するものとし、この場合における費用負担は、第15条第4項の定めに従う。
 - (4) 事業者は、市の継続使用するペット火葬等について市の発注に係る第三者の運営が解体・撤去等業務に係る本件工事の施工上密接に関連する場合において、工事期間、工事区分、光熱水費の負担その他調整の必要があるときは、その調整を行うものとする。この場合においては、事業者は、市又は市が指定する第三者と協議の上、市の調整に従い、市又は第三者の行うペット火葬棟の円滑な運営に協力しなければならない。
 - (5) 事業者は、入札説明書等の定めに従い、既存施設（現斎場）内に残存する備品の市の再利用品の整理を市と共に行うものとし、そのために必要な市との協議、調査その他の協力・支援等を事業者の費用負担で行う。
- 2 事業者は、自己又は工事請負人をして、解体・撤去等業務に係る工事期間中、別紙7（事業者等が付保する保険）第2項に記載されるところに従って、保険に加入し、又は加入させるものとする。
 - 3 前各項の定めるところに従うほか、事業者は、解体・撤去等業務に係る本件工事期間中、本章第2節及び第4節に定めるところに従って解体・撤去等業務に係る本件工事を施工し、工事監理する。

第6節 検査・確認

(中間確認及び建設現場立会い等)

- 第27条 市は、本件工事期間中随時、事業者に事前に通知したうえで、本件施設が設計図書に従って整備されていることを確認するため、事業者に対して本件工事について中間確認を求めることができるものとし、また、工事現場において本件工事の状況を、事業者の立会いのうえ、確認することができるものとする。
- 2 事業者は、前項に定めるところの中間確認及び本件工事の状況確認の実施について、市に対して最大限の協力を行うものとし、また、工事請負人をして、市に対して必要かつ合理的な範囲において説明及び報告を行わせるなど最大限の協力を行わせるものとする。
- 3 市は、前2項に定めるところの確認の結果、本件施設が本契約、入札説明書等、設計図書又は事業者提案に従って整備されていないと判断した場合、事業者に対してその改善を勧告することができ、事業者はこれに従うものとする。
- 4 事業者は、本件工事期間中に事業者が行う検査又は試験のうち主要なものを実施する場合、事前に市に対して通知するものとする。市は、当該検査又は試験に立ち会うことができるものとする。
- 5 市は、本条に定めるところの確認、改善の勧告又は立会いの実施を理由として、本事業の実施の全部又は一部について何ら責任を負担するものではない。

(事業者による完成検査等)

- 第28条 事業者は、(i)本施設に関しては、引渡予定日までに、また、(ii)解体・撤去等業務に関しては、別紙1(事業日程)第8項記載の解体・撤去等業務完了予定日までに自己の責任及び費用負担において、本件工事の目的物ごとに、当該目的物に係る完成検査等(本施設については、完成検査及び機器、器具、備品等の試運転及びシックハウス検査その他の検査を含む。以下同じ。)を完了するものとする。なお、事業者は、各完成検査等の実施に当たり、その日程を14日前までに市に対して通知するものとする。
- 2 市は事業者に対し、前項に定めるところの完成検査等を市又はその指定する者の立会いの下で実施することを求めることができるものとし、事業者は、これに従うものとする。ただし、市は、当該立会いの実施を理由として本事業の実施の全部又は一部について何ら責任を負担するものではない。
- 3 前項に定めるところの市の立会いの有無を問わず、事業者は市に対して、第1項に定めるところの完成検査等の結果を、当該検査結果に関する書面の写しを添付したうえで、報告するものとする。

(火葬炉の性能試験及びシックハウス検査並びに環境保全対策)

- 第29条 本施設に関しては、要求水準書の定める公害防止に係る基準を満たしているかを確認するため、事業者は、次の各号の定めるところに従って、要求水準書の定

める火葬炉の性能試験を実施する。

- (1) 事業者は、要求水準書の定める性能試験の要領を踏まえ、性能試験の試験事項及び方法について市と協議のうえ、次の各規定の定めるところに従って、市の指定する書式により性能試験実施要領を作成のうえ、市の承諾を得るものとする。事業者は、性能試験実施要領について市の承諾を受けたうえでなければ、性能試験の実際の作業に取り掛かることはできないものとする。
 - ア 事業者は、火葬炉の設置が完了し所定の性能を発揮することが可能と判断される時点以降において、具体的な性能試験の要領を記載した性能試験実施要領案を作成して市に提出するものとする。
 - イ 事業者は、性能試験実施要領案について、竣工時検査については、引渡予定日の60日前までに、また、着工前調査又は定期検査については市の指定した期日までに、それぞれ市の確認を受けるものとする。
 - ウ 市は、前記アの定めるところに従って提出された性能試験実施要領案について、指摘事項がないときについては性能試験実施要領案に関して承諾した旨を性能試験実施要領案の提出日から10日以内に事業者に通知する。
 - エ 市は、前記アの定めるところに従って提出された性能試験実施要領案について、それが事業者との協議による性能試験の試験事項若しくは方法又は要求水準書（資料8を含むが、これに限られない。）に基づいていないこと等を指摘して、当該指摘事項の内容と理由を記載した通知をすることにより、その承諾を拒絶することができる。
 - オ 事業者は、前記エの規定により市に提出した性能試験実施要領案が市の承諾を得られなかったときは、速やかに指摘事項を十分に踏まえて補足、修正又は変更を行って当該性能試験実施要領案を改訂して市に再提出し、改めて市の承諾を受けなければならないものとする。
- (2) 事業者は、前号の定めるところに従って市の承諾の得られた性能試験実施要領に基づき、次の各規定の定めるところに従い、要求水準書に定める火葬炉の性能試験を実施する。
 - ア 性能試験は、要求水準書及び次号以降の定める性能試験の要領により、市と協議により定められた性能試験の試験事項及び方法によらなければならない。
 - イ 性能試験は、本施設工事期間中に行うものとする。ただし、火葬炉の機能上、供用開始前の性能試験が困難である場合には、火葬炉の性能試験は引渡日の10日以内に実施すれば足るものとする。
 - ウ 火葬炉は、性能試験の実施期間中、要求水準書の定める公害防止に係る基準その他の要求水準及び性能試験実施要領に規定された基準等を全て満たさなければならないものとする。火葬炉が要求水準書の定める公害防止に係る基準その他の要求水準及び性能試験実施要領に規定された基準等のいずれかを満たさない場合は、事業者は、自らの費用と責任において、必要な修補、改良及び追加工事等を実施し、火葬炉が当該基準等を全て満たすようにしなけ

ればならず、全ての項目について同時に基準等を満たすまで、本項の手順を繰り返すものとする。

エ 事業者は、性能試験の開始後、火葬炉が要求水準書の定める公害防止に係る基準その他の要求水準及び性能試験実施要領に規定された基準等を全て満たしたときは、その旨を、火葬炉に関する性能試験のデータ等を添えて市に通知する。

オ 市は、前記エの通知受領後30日以内に、受領したデータ等を確認し、要求水準書の定める公害防止に係る基準その他の要求水準及び性能試験実施要領に規定された基準等が全て満たされているときは、事業者に性能試験確認証を交付するものとする。

2 本施設に関し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及び揮発性有機化合物が放散しない又は放散量が少ない備品等が選定されて設置されていることを確認するため、前条の定めるところに従って完成検査等の実施に先立ち、事業者は、要求水準書に従って、「室内空气中化学物質の測定マニュアル」(厚生労働省)により本施設の主要諸室におけるホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及び揮発性有機化合物等の室内濃度を測定し、それぞれの結果を市に報告するものとする。かかる報告において測定値が「室内空气中化学物質の室内濃度指針値及び標準的測定方法等について」(厚生労働省生活衛生局長通知)に定められる基準値を上回った場合、事業者は、自己の責任及び費用負担において、是正措置を講じ、第31条に基づく市による完成確認等までに当該基準値を測定値が下回る状態を確保するものとする。

3 事業者は、前各項に従うほか、本施設に関し、関係法令等で定められた公害防止に係る基準が運営期間にわたって守られるよう、施設整備業務の実施段階で要求水準書及び事業者提案に基づき十分な性能確認を行うとともに、本施設以外の本件施設に関しても、関係法令等で定められた公害防止に係る基準が運営期間にわたって守られるよう、解体・撤去等業務の実施段階で要求水準書及び事業者提案に基づき十分な性能確認を行うほか、要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案に従って環境保全対策業務を遂行する。なお、かかる性能確認検査とその結果報告並びに本件工事期間中における環境保全対策業務の実施については、第52条第1項が準用されるものとする。

(法令による完成検査等)

第30条 事業者は、(i)本施設に関しては、第28条第3項に定めるところに従って完成検査等報告後速やかに、かつ、遅くとも引渡予定日までに、また、(ii)解体・撤去等業務に関しては、別紙1(事業日程)第8項記載の解体・撤去等業務完了予定日までに、その日程を7日前に市に対して通知したうえで、自己の責任及び費用負担において、本件工場の目的物ごとに、当該目的物に係る全ての法令に基づく完成検査を受検し完了するものとする。

2 市は事業者に対し、前項に定めるところの完成検査の受検への立会いを求めるこ

とができるものとし、事業者は、これに従うものとする。ただし、市は、当該立会の実施を理由として本事業の実施の全部又は一部について何ら責任を負担するものではない。

- 3 前項に定めるところの市の立会いの有無を問わず、事業者は市に対して、第1項に定めるところの各完成検査の受検結果を、当該完成検査に係る検査済証その他の検査結果に関する書面の写しを添付したうえ、それぞれ第1項記載の期限までに報告するものとする。
- 4 事業者は、本件工事の目的物ごとに、前項の報告とともに、当該目的物に係る別紙6（完成時の提出図書）第1項又は第2項に列挙される図書を作成し、市に対してそれぞれ提出するものとする。なお、事業者は、完成写真の提出時において、市による完成写真の使用が、第三者の有する著作権を侵害するものでないことを市に対して保証のうえ、次の各号の定めるところに従うものとする。
 - (1) 事業者は、市に提出した完成写真が第三者の有する著作権等を侵害し、第三者に対して損害の賠償を行い、又は必要な措置を講じなければならないときは、事業者がその賠償額を負担し、又は市が完成写真を市が行う事務、市が認めた公的機関の広報等に、著作者名等を表示せずは無償で使用することができるよう必要な措置を講ずる。この場合、市は、完成写真の著作権名を表示しないことができるものとする。
 - (2) 事業者は、あらかじめ市の承諾を受けた場合を除き、完成写真が公表されないようにし、かつ、完成写真が市の承諾しない第三者に閲覧、複写又は譲渡されないようにする。

（市による完成確認）

第31条 市は、本件工事の目的物ごとに、本契約に別段の定めがある場合を除き、第28条ないし第30条に定めるところの検査等の終了後、以下の各号に定めるところに従って本件工事の目的物に係る完成確認をそれぞれ実施するものとする。

- (1) 事業者は、(i)本施設に関しては、引渡予定日までに、また、(ii)解体・撤去等業務に関しては、別紙1（事業日程）第8項記載の解体・撤去等業務完了予定日までに、各本件工事に係る工事現場において、工事請負人及び工事監理者を立ち合わせ、かつ工事記録を準備したうえ、市による完成確認を受ける。
 - (2) 市は、本件工事の目的物ごとに、当該目的物に係る完成図書との照合により、それぞれの完成確認を実施する。
 - (3) 事業者は、事業者による機器、器具、備品等の試運転とは別に、機器、器具、備品等の取扱いに関し、市に対して説明する。
- 2 市は、前項に基づく本件工事の目的物が入札説明書等、事業者提案及び設計図書に従って整備されていないと認める箇所がある場合（第29条に定めるところの測定値が基準値を上回っている場合を含む。）、事業者に対して改善を勧告することができるものとする。当該場合、事業者は、(i)本施設に関しては、引渡予定日まで

に、また、(ii)解体・撤去等業務に関しては、別紙1（事業日程）第8項記載の解体・撤去等業務完了予定日までに、自己の責任及び費用負担において、当該勧告に従って当該箇所を改善するものとし、改善措置を完了した後、直ちに市の確認を受けるものとする。

- 3 市は、本件工事の目的物ごとに、前各項の定めるところに従って当該目的物についての完成確認が完了した場合には、事業者に対し速やかに当該目的物に係る完成確認証をそれぞれ交付する。

（施設供用業務の実施体制整備）

第32条 事業者は、供用開始予定日までに、要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案に基づくそれぞれの施設供用業務の実施体制に必要な人員を確保し、かつ施設供用業務を遂行するために必要な訓練、研修等を行うものとする。

- 2 事業者は、前項に定めるところの研修等を完了し、かつ要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案に従って施設供用業務の実施体制を整備のうで施設供用業務の遂行を開始することが可能となった時点において、市に対してそれぞれ通知を行うものとする。
- 3 市は、前項に定めるところの通知を受領した後、供用開始予定日まで、要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案に従った施設供用業務の実施体制が整備されていることを確認するため、任意の方法により施設供用業務の実施体制をそれぞれ確認するものとする。

（施設供用業務マニュアル及び全体施設供用計画書の提出）

第33条 事業者は、供用開始日以降本事業期間が終了する日までの期間を通じた業務遂行に必要な事項を記載した維持管理業務マニュアル及び運營業務マニュアル（火葬炉運転マニュアル、接遇マニュアルを含む。以下、総称して「施設供用業務マニュアル」という。）を、要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案に基づいて作成したうえ、引渡日の90日前までに、市に対して提出し、供用開始予定日までに、市の承諾を得るものとする。

- 2 前項の定めるところに従って施設供用業務マニュアルを提出するに当たり、事業者は、(i)本件施設の対象物の耐用年数、消耗度等に照らした各部分の修繕時期、概算経費を示す長期修繕計画書（以下「長期修繕計画書」という。）並びに、(ii)本件施設に対応した維持管理期間の全期間に渡る全体維持管理計画書及び、(iii)運営期間の全期間に渡る長期運営計画書（以下、長期修繕計画書を含め、総称して「全体施設供用計画書」という。）を要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案に基づいて作成して市に提出し、その承諾を得るものとする。
- 3 前各項の規定により市に提出された各施設供用業務マニュアル及び全体施設供用計画書については、事業者は、定期的に見直しを行い、維持管理期間及び運営期間における最適化を図るものとし、改訂する都度、市に対し、改訂箇所の新旧が分か

る対照表を添えて改訂された最新版を提出するものとする。

- 4 第1項及び第2項の定めるところに従って施設供用業務の開始に先立って提出されたものを含め、市は、前各項の定めるところに従って提出された（最新版の）各施設供用業務マニュアル及び全体施設供用計画書を承諾するに当たり、改善その他の指示をすることができるものとし、事業者は、かかる市の指示を受けたときは、市の承諾が得られるまで、必要な修正を行うものとする。

（業務完了手続）

第34条 事業者は、施設整備業務に関し、以下の各号に定められるところの事由が全て満たされた場合、市に対し、業務完了届を提出するものとする。市は、当該業務に係る業務完了届を受領後7日以内に、以下の各号に定めるところの事由が全て満たされているかを確認するものとし、当該事由が全て満たされていることが確認できたときは、事業者による施設整備業務の履行の完了を証する業務完了証を作成したうえ、事業者に対して交付するものとする。

- (1) 第29条第1項第2号オの定めるところに従って火葬炉の性能試験確認証の交付を受けたこと。
- (2) 第31条の定めるところに従って本施設の完成確認が完了したこと。
- (3) 第32条第3項の定めるところに従って施設供用業務の実施体制の整備が完了したことが確認されたこと。
- (4) 第33条の定めるところに従って施設供用業務マニュアル及び全体施設供用計画書についての市の承諾が得られ、かつ第47条の定めるところに従って第1回目の年間施設供用計画書についての市の承諾が得られたこと。
- (5) 第40条第1項ないし第3項の定めるところに従って本施設の引渡し及び所有権移転手続が完了したこと。
- (6) 第43条第4項に定めるところに従って市の確認がなされていること。
- (7) 第54条第2項に定めるところに従って本施設に付保されるべき別紙7（事業者等が付保する保険）第3項に掲げる内容を有する保険の保険証書の写しが市に対して提出されたこと。

2 事業者は、解体・撤去等業務に関し、以下の各号に定められるところの事由が全て満たされた場合、市に対し、業務完了届を提出するものとする。市は、当該業務に係る業務完了届を受領後7日以内に、以下の各号に定めるところの事由が全て満たされているかを確認するものとし、当該事由が全て満たされていることが確認できたときは、事業者による解体・撤去等業務の履行の完了を証する業務完了証を作成したうえ、事業者に対して交付するものとする。

- (1) 第29条第3項の定めるところに従って市が事業者より駐車場その他解体・撤去等業務に係る本件工事の工事目的物についての性能確認の結果報告を受けたこと。
- (2) 第31条の定めるところに従って本件工事に係る全ての完成確認が完了したこと。
- (3) 第40条第4項の定めるところに従って解体・撤去等業務に係る本件工事の工事

目的物の引渡し及び解体施設の跡地の明渡しが完了したこと。

- (4) 第54条第2項に定めるところに従って解体・撤去等業務に係る本件工事の工事目的物に付保されるべき別紙7（事業者等が付保する保険）第3項に掲げる内容を有する保険の保険証書の写しが市に対して提出されたこと。
- 3 市は、前各項の定めるところに従って業務完了証を交付したことを理由として、本事業の実施の全部又は一部について何ら責任を負担するものではない。

第7節 工期の変更

（工事の一時停止）

- 第35条 市は、必要があると認める場合、その理由を事業者に通知したうえで、本件工事の全部又は一部の施工を停止させることができる。この場合、市は必要に応じて、工期を変更し、また、供用開始予定日を変更することができる。ただし、供用開始予定日の変更される場合でも第58条第1項に規定する本契約の期間終了日は変更されないものとし、供用開始予定日が遅延されることにより維持管理期間及び運営期間が短縮されることに伴うサービス購入料総額が減額されるものとする。この場合、事業者は、市の求めるところに従い、市との間で契約金額の減額に係る変更契約書の締結その他必要な契約変更手続を履践しなければならない。
- 2 前項に定めるところにより工事が停止された場合、当該工事の停止により事業者
に直接生ずる損害、損失又は費用（事業者が工事の再開に備え工事現場を維持し、
若しくは労働者、建設機械器具等を保持するために要する費用を含む。）の負担に
ついては、市及び事業者は、本契約の他の規定にかかわらず、以下の各号に定め
るところに従うものとする。
- (1) 当該工事の停止が市の責めに帰すべき事由による場合は、市がこれらを負担するものとし、市は、事業者と協議のうえ、サービス購入料を増額することなどにより事業者に対して支払うものとする。
 - (2) 当該工事の停止が事業者の責めに帰すべき事由による場合は、事業者がこれらを負担する。
 - (3) 当該工事の停止が法令変更による場合は、別紙13（法令変更による費用の負担割合）に定めるところの負担割合に従い、市及び事業者が負担するものとし、その負担の方法については、市と事業者との間の協議により定めるものとする。
 - (4) 当該工事の停止が不可抗力による場合は、別紙8（不可抗力による損害、損失及び費用の負担割合）に定めるところの負担割合に従い、市及び事業者が負担するものとし、その負担の方法については、市と事業者との間の協議により定めるものとする。
- 3 前項第3号及び第4号の場合、第62条第1項ないし第3項の規定は適用されない。

（工期の変更）

第36条 市は、必要があると認める場合、事業者に対して工期の変更を請求することができる。

- 2 事業者は、その責めに帰すことができない事由により工期の変更が必要となった場合、市に対して工期の変更を請求することができる。
- 3 前2項に定めるところに従って、工期の変更が請求された場合、市と事業者は、その協議により当該変更の当否を決定するものとする。ただし、市と事業者の間における協議の開始から7日以内にその協議が調わないときは、市が合理的な工期を定め、事業者に通知するものとし、事業者はこれに従うものとする。
- 4 前項の定めるところにより工期が変更される場合、供用開始予定日を変更することができる。ただし、供用開始予定日が変更される場合でも第58条第1項に規定する本契約の期間終了日は変更されないものとする。

(工期変更の場合の費用負担)

第37条 第35条及び第36条の定めるところにより工期が変更された場合、当該工期の変更により市又は事業者において損害、損失又は費用（本事業の遂行に当たり事業者において生ずる追加的な費用を含む。）が生ずるときは、市及び事業者は、その負担について、以下の各号の定めるところに従うものとする。

- (1) 当該工期の変更が市の責めに帰すべき事由による場合は、市がこれらを負担するものとし、市は、事業者と協議のうえ、サービス購入料を増額することなどにより事業者に対して支払うものとする。
 - (2) 当該工期の変更が事業者の責めに帰すべき事由による場合は、事業者がこれらを負担する。
 - (3) 当該工期の変更が法令変更による場合は、別紙13（法令変更による費用の負担割合）に定めるところの負担割合に従い、市又は事業者が負担するものとし、その負担の方法については、市と事業者との間の協議により定めるものとする。
 - (4) 当該工期の変更が不可抗力による場合は、別紙8（不可抗力による損害、損失及び費用の負担割合）に定めるところの負担割合に従い、市及び事業者が負担するものとし、その負担の方法については、市と事業者との間の協議により定めるものとする。
- 2 前項第3号及び第4号の場合、第62条第1項ないし第3項の規定は適用されない。

第8節 損害の発生

(第三者等に対する損害)

第38条 本件工事の施工により第三者に生じた一切の損害、損失又は費用は、事業者がこれらを負担するものとし、第三者に対して賠償するものとする。ただし、当該損害等が事業者の責めに帰すべからざる事由により生じた場合（本件工事の施工に伴い通常避けることができない騒音、振動、地盤沈下、地下水の断絶等の理由により

当該損害等が生じた場合を含む。）で、第17条に基づき付保された保険等により填補されないときは、市がこれらを負担するものとし、第三者に対して賠償するものとする。

- 2 事業者は、本件工事の施工により隣接する道路その他市の施設等に汚損、破損等しないよう留意し、本件工事中に汚損、破損等した場合には、事業者の費用及び責任において補修又は補償するものとする。

（本件施設への損害）

第39条 不可抗力により、(i)引渡日までに、本施設（解体・撤去等業務以外の施設整備業務に係る本件工事の工事目的物の出来形を含む。）、施設整備業務に係る本件工事の仮設物又は工事現場に搬入済みの工事材料その他建設機械器具等に損害、損失又は費用（本事業の遂行に当たり事業者において生ずる追加的な費用を含む。）が生じた場合、また、(ii)解体・撤去等業務に係る業務完了証交付日までに、解体施設その他解体・撤去等業務に係る本件工事の工事目的物、仮設物又は工事現場に搬入済みの工事材料その他建設機械器具等に損害、損失又は費用（本事業の遂行に当たり事業者において生ずる追加的な費用を含む。）が生じた場合、事業者は、当該事実の発生後直ちにその状況を市に通知しなければならない。

- 2 前項の規定による通知を受けた場合、市は直ちに調査を行い、損害、損失又は費用の状況を確認し、その結果を事業者に通知するものとする。
- 3 第1項に規定する損害、損失又は費用については、別紙8（不可抗力による損害、損失及び費用の負担割合）に定めるところの負担割合に従い、市及び事業者がそれぞれ負担するものとし、その負担の方法については、市と事業者との間の協議により定めるものとする。
- 4 第1項の場合、前各項に定める事項を除く他の事項については、市及び事業者は、第62条の定めるところに従うものとする。

第9節 引渡し

（本施設の引渡し等）

第40条 事業者は、本施設について第31条に定めるところの市による完成確認がなされた後、引渡予定日までに、本施設を市に引渡し、所有権を市に移転するものとする。この場合、事業者は、本施設について、担保権その他の制限物権等の負担のない、完全な所有権を市に移転するものとする。

- 2 本施設の所有権は、事業者がこれを原始的に取得するものとし、事業者は、本件工事の委任若しくは請負に係る契約においてその旨を規定するものとする。
- 3 事業者は、第1項に定めるところに従って本施設の引渡しを行うとともに、第23条第3項に定めるところの備品台帳並びに事業者が要求水準書に基づき倉敷市物品管理規則に従って定める様式及び内容の施設管理台帳を市に対してそれぞれ提出す

るものとする。

- 4 事業者は、解体・撤去等業務に係る本件工事の工事目的物について、第31条に定めるところの市による完成確認がなされた後、事業スケジュールに従い、これを市に引渡し、解体施設の跡地を明け渡すものとする。

（運営開始の遅延）

- 第41条 市の責めに帰すべき事由により本施設に係る運営開始が供用開始予定日より遅延した場合、市は、当該遅延に伴い事業者において生ずる損害、損失及び費用（本事業を遂行するに当たり事業者において当該遅延により生じた合理的な追加的な費用を含む。）を負担するものとし、市は、市と事業者との間の協議により決定されるところに従って、事業者に対してこれを支払うものとする。
- 2 市の責めに帰すべからざる事由により本施設に係る運営開始が供用開始予定日より遅延した場合、事業者は、事業者の責めに帰すことのできない事由による場合を除き、供用開始予定日の翌日から供用開始日（同日を含む）までの期間の遅延日数1日について、施設整備費から割賦金利を控除した額の1,000分の2以内で市が定める金額の遅延損害金を直ちに市に対して支払うものとし、また、当該遅延損害金を超える損害、損失又は費用（本事業を遂行するに当たり事業者において当該遅延により生ずる追加的な費用を含む。）があるときは、事業者はそれらを負担し、市に支払うべきものがあれば、直ちに市に対して支払うものとする。なお、本契約に従い市が事業者に対して設計業務又は本件工事につき第12条、第13条による修正の要求又は第27条、第31条による改善を勧告したことにより市に対する本施設に係る運営開始が遅延した場合も、本項が適用されるものとする。
 - 3 前2項にかかわらず、本施設の運営開始の遅延が不可抗力によるときにおける当該遅延に伴い生ずる合理的な範囲の損害、損失及び費用に相当する額のうち別紙8（不可抗力による損害、損失及び費用の負担割合）に定める事業者の負担割合により算出される額、並びに、本施設の運営開始の遅延が法令変更によるときにおける当該遅延に伴い生ずる合理的な範囲の損害、損失及び費用に相当する額のうち別紙13（法令変更による費用の負担割合）に定める事業者の負担割合により算出される額については、事業者がこれを負担するものとする。
 - 4 本契約の定めるところに従って供用開始予定日が変更された場合には、第2項に規定する遅延損害金は、市と事業者とが合意のうえ変更した供用開始予定日より遅れたときに、発生するものとする。

（担保責任）

- 第42条 市は、本施設その他本件工事の工事目的物に、本契約、要求水準書その他の適用のある入札説明書等又は事業者提案の内容に適合しない箇所（仕様不備、品質不良、機能不全、性能未達の箇所を含むが、これらに限られない。以下「不適合箇所」という。）がある場合、事業者に対してその不適合箇所に係る履行の追完（修

補、備品についての取替えも含むが、市が承諾した場合に限る。以下同じ。）を請求することができる。ただし、当該履行の追完に過分の費用を要するときは、この限りでない。

- 2 前項の場合において、事業者は、市に不相当な負担を課するものでないときは、市が請求した方法と異なる方法による履行の追完をすることができる。
- 3 第1項の場合において、市が相当の期間を定めて履行の追完の催告をし、その期間内に履行の追完がないときは、市は、その不適合の程度に応じてサービス購入料の減額を請求することができる。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、催告をすることなく、直ちにサービス購入料の減額を請求することができる。
 - (1) 履行の追完が不能であるとき。
 - (2) 事業者が履行の追完を拒絶する意思を明確に表示したとき。
 - (3) 工事目的物の性質又は当事者の意思表示により、特定の日時又は一定の期間内に履行しなければ契約をした目的を達することができない場合において、事業者が履行の追完をしないでその時期を経過したとき。
 - (4) 前3号に掲げる場合のほか、市がこの項の規定による催告をしても履行の追完を受ける見込みがないことが明かであるとき。
- 4 事業者は、別紙9（保証書の様式）に定める様式により、工事請負人に、市に対し本条による不適合箇所の履行の追完及び損害の賠償をなすことについて保証させ、当該保証書を市に対して提出するものとする。

第5章 予約・運営支援システム整備及び稼働準備等

（予約・運営支援システム整備及び稼働準備等）

第43条 事業者は、要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案に基づき、次の各号所定の各システム（当該システムの災害等の不測の事態に備えた代替手段及びバックアップ体制を含む。以下総称して「本システム」という。）をそれぞれ整備し、本システムの操作方法がそれぞれ明記された各操作マニュアルを、供用開始予定日までに本システムを利用する市職員及び葬祭業者が問題なく使用できるよう、市職員及び葬祭業者ごとに作成し、市の満足する様式及び内容のデータで納品するとともに、本システムを利用する市職員向けの操作研修及び葬祭業者など利用者向けの利用方法等の操作説明会の実施をそれぞれ供用開始予定日までに完了して、適切に利用できることを確認したうえで供用開始を迎えるものとする。なお、事業者は、本システムに関し、要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案に従い、上記の操作研修及び操作説明会を、必要に応じて実施するほか、運営期間中において常時正常な状態で稼働させるための稼働管理を継続的に行い、データのバックアップ等その他必要な定期的な保守管理・サポートを施設供用業務として実施しなければならない。

- (1) 本施設その他倉敷市内の四斎場の予約受付を行う「予約システム」
 - (2) 本施設の運営を支援する「運営支援システム」
- 2 事業者は、市が供用開始予定日に本施設において供用を開始できるよう、第31条の定めるところに従って本施設の市による完成確認を受け、かつ、第40条に定めるところに従って本施設を市に対して引き渡すとともに、供用開始予定日までに、要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案に基づき、次の定めに従い、本施設の稼働準備を行うものとする。
- (1) 稼働準備に伴う資機材及び消耗部品等は、事業者の費用負担において、事業者がこれを調達して消費するものとする。
 - (2) 稼働準備に当たって必要となる光熱水費は、全て事業者の負担とする。
- 3 事業者は、要求水準書及び事業者提案に基づき、インターネットホームページの開設、パンフレットその他広報・宣伝活動に関する資料等の作成、利用規則及び予約受付規約の作成、供用開始前の予約受付及び利用打合せその他本事業関連書類に従って必要な稼働準備業務を自らの責任及び費用負担で所定の期限までに実施するものとし、市の承諾を受けるものとする。
- 4 本章の定めるところのほか、事業者は、市が本施設において、供用を開始するまでに、要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び本契約に従って本事業を実施するに当たり施設整備業務上必要な事項を本事業実施に支障がないよう事業者提案に基づき実施するものとし、市の承諾を受けるものとする。
- 5 事業者は、前各項に定めるところに従って稼働準備業務の履行を完了し、かつ、全体施設共用計画書及び供用開始予定日が属する事業年度に係る年間施設供用計画書に従って本施設の供用開始が可能となった段階で、市に対してその旨通知を行い、市の確認を受けるものとする。

第6章 施設供用業務

第1節 総則

（施設供用業務）

第44条 市は、本条例に定めるところに従い、事業者から本件施設の引渡しを受けたことを停止条件として、事業者を本件施設の指定管理者として指定する（以下「本指定」という。）。事業者は、市が事業者から本件施設の引渡しを受け、かつ、本指定がその効力を生じるまでは、施設供用業務を開始することはできず、市に対し、施設供用業務に係るサービス購入料の支払（維持管理業務及び運営業務に係る費用の支払を含む。）又は費用の求償を求めることはできない。なお、市及び事業者は、事業年度ごとの施設供用業務の内容について、事業年度ごとに年度別協定書を締結する。年度別協定書の原案は、事業年度ごとに市がこれを作成し、事業者に示すも

のとする。

- 2 事業者は、市が事業者から本施設の引渡しを受け、かつ、本指定がその効力を生じた場合には、直ちに、施設供用業務に着手し、維持管理業務を維持管理期間に渡り、また、運営業務を運営期間に渡って、該当の期間に係る年度別協定書に基づき、日本国の法令を遵守のうえ、本契約、入札説明書等及び事業者提案、施設供用業務マニュアル並びに年間施設供用計画書に従って施設供用業務を実施するものとし、かつ、事業者は、施設供用業務に関し、市と定期的（月一回以上）及び市の求めに応じて協議を行うものとする。
- 3 事業者は、維持管理期間中、本件施設及びその設備、機器等の全てが要求水準書及び事業者提案に定める水準で維持管理され、かつ、その運営により、運営期間中、要求水準書及び事業者提案に定める水準の性能及び能力が発揮されることを保証するものとし、維持管理期間中、本件施設又はその設備、機器等が要求水準書及び事業者提案に定める水準で維持管理されておらず、又は、その運営により、運営期間中、要求水準書及び事業者提案に定める水準の性能若しくは能力が発揮されていないことが判明した場合には、本契約に別段の定めがある場合を除くほか、要求水準書に基づき、事業者の費用と責任において速やかに補修、改造又は交換するものとする。
- 4 事業者は、施設供用業務を遂行するに当たり、事業者は、本条例の定めるところにより維持管理及び運営に関する権限を行使し、必要な措置を講じることができる。事業者は、かかる措置を講じる場合は、事前に又は事後速やかに、当該措置の内容を市に対して通知する。
- 5 市は、供用開始予定日までに、本件施設の使用料その他本件施設の運営に必要な事項を、本条例で規定するものとし、事業者は、次の各号の定めのほか、適用のある本条例その他市の定める条例、規則、要綱等の各規定に従い、本件施設の利用者から、所定の使用料の徴収を行い、市に収納する公金収納代行業務を自ら行う。なお、事業者は、第46条の定めにかかわらず、かかる公金収納代行業務を第三者に委託することができない。
 - (1) 市の会計管理者と事業者が協議の上、徴収・納入方法その他の事務処理方法を決した場合には、かかる決定された徴収・納入方法その他の事務処理方法を事業者は遵守するものとする。
 - (2) 事業者は、徴収した使用料を、市が定める現金引継簿にその現金及び納付書を添えて市が定める期日に、市が指定する指定金融機関、指定代理金融機関又は収納代理金融機関に納入しなければならない。
 - (3) 事業者は、使用料の徴収、納付に係る日報、月報を作成し（様式は別途定める。）、各納入時に、これを市に報告する。
 - (4) 事業者は、徴収した使用料を紛失した場合、又は徴収すべき使用料を徴収しなかった場合は、これを市に賠償する。
 - (5) 事業者は、第2号に基づく納付を遅延した場合、納付すべき期限の翌日から起

算して納付があった日までの日数に応じ、納付を遅延した金額につき、市が定める割合で計算した遅延損害金を市に支払う。

- (6) 市は、随時、自らの費用により、使用料の徴収業務について、事業者に対する監査を実施できる。

(費用負担)

第45条 施設供用業務に伴う資機材及び消耗部品等は、要求水準書に別段の定めがない限り、事業者の費用負担において、事業者がこれを調達して消費するものとする。また、事業者は、各事業年度終了後毎年4月15日までに、入札説明書等に定めるところにより、当該事業年度終了時点における最新の施設管理台帳及び備品台帳を提出するものとする。

- 2 施設供用業務の遂行に当たって必要となる光熱水費は、要求水準書の定めに従って市が負担する火葬炉燃料に係る費用を除き、全て事業者の負担とし、要求水準書の定めに従い、電気及び上水道は、事業者が各供給業者とそれぞれ使用契約を締結し、直接、当該供給業者に支払うものとする。
- 3 事業者は、施設供用業務の遂行に当たって使用した光熱水費の毎月の使用量を整理して取り纏めた使用量報告書を業務報告書（月報）とともに市に提出するものとする。

(第三者による実施)

第46条 事業者は、施設供用業務に係る各業務（ただし、本件施設の利用許可に関する権限の行使は除く。以下において同じ。）を、事業者提案に従い、各施設供用業者にそれぞれ委任し又は請け負わせるものとする。

- 2 事業者は、事業者提案において提案されていない態様での施設供用業務の各業務の委任又は請負をしてはならない。ただし、合理的な理由がある場合に限り、当該委任又は請負を受ける者の商号、所在地その他市が求める事項を市に事前に通知したうえ、市の事前の承諾を得た場合はこの限りでない。
- 3 事業者は、施設供用業者が事業者提案に従って当該施設供用業者が行うべき施設供用業務の各業務（一部に限る。）を当該施設供用業者以外の第三者に委任し、又は請け負わせる場合、事前に当該第三者の商号、所在地その他市が求める事項を市に届け出るものとする。当該第三者が行う業務を第三者にさらに復委任し、又は下請けさせる場合も同様とする。
- 4 施設供用業者その他施設供用業務に関して事業者又は施設供用業者が使用する一切の第三者に対する施設供用業務の委任又は請負は全て事業者の責任において行うものとし、当該第三者の責めに帰すべき事由は、全て事業者の責めに帰すべき事由とみなして、事業者が責任を負うものとする。

(施設供用業務の遂行計画)

- 第47条 事業者は、維持管理期間中、各事業年度における本件施設の年間維持管理計画書を作成し、また、運営期間中、各事業年度における本件施設の年間運営計画書（物品販売業務に係る業務計画書を含む。以下、各維持管理業務年間計画書と各運営業務年間計画書を総称して「年間施設供用計画書」という。）を要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案に基づいて作成し、当該事業年度が開始する60日前までに、市に提出したうえ、その承諾を得るものとする。
- 2 前項の定めにかかわらず、第1回目の年間施設供用計画書は、供用開始日が属する事業年度を対象年度とし、引渡日の90日前までに、市に提出し、その承諾を得るものとする。
 - 3 前各項の規定により市に提出された各年間施設供用計画書については、事業者は、原則として当該年間施設供用計画書に係る対象事業年度にわたり、変更しないものとするが、改訂する必要があるときは、市の事前の承諾を得て改訂し、市に対し、改訂された最新版を提出するものとする。
 - 4 市は、前各項の定めるところに従って提出された（最新版の）各年間施設供用計画書を承諾するに当たり、改善その他の指示をすることができるものとし、事業者は、かかる市の指示を受けたときは、市の承諾が得られるまで、必要な修正を行うものとする。

（施設供用業務の実施体制）

- 第48条 事業者は、施設供用業務に関し、要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案に基づき、施設供用業務全般を総合的に把握し、市及び関係機関等との調整を行う総括責任者、維持管理業務及び運営業務の各業務の管理等を行う業務責任者及びその他の施設供用業務に従事する者（本条において、これらの者を総称して「従事職員」という。）をそれぞれ選任して施設供用業務実施体制を整え、従事職員の氏名、有する資格等を記載した従事職員名簿を作成し、供用開始予定日の60日前までに市に提出するものとする。
- 2 事業者は、従事職員に異動があった場合、その都度届出なければならない。この場合における届出は、最新の名簿を添えて異動のある従事職員を書面で通知することにより行うものとする。
 - 3 市は、事業者の従事職員がその業務を行うのに不相当と認められるときは、その事由を明記して、事業者に対しその交代を求めることができ、事業者はこれに従うものとする。

（情報管理）

- 第49条 事業者は、本事業期間中及び本契約の終了後においても、運営業務の実施に付随関連して知り得た個人情報の取扱いに関し、漏えい、滅失、き損の防止等、個人情報の適正な管理のために必要な措置を個人情報の保護に関する法律、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第58号）及び行政手続に

における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律並びにこれらの法律に関して市が定める条例その他規則その他の法令に従って講じるものとする。

- 2 事業者は、運營業務に従事する者及び従事した者をして、個人情報のみだりに他人に知らせたり、不当な目的に利用させないものとし、そのために必要な情報管理措置を講じるものとする。

(修繕・更新)

第50条 事業者は、要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案並びに最新の全体施設供用計画書及び年間施設供用計画書に基づき、本件施設の修繕・更新（大規模修繕を除く。）を行うものとする。

- 2 第51条第2項所定の報告のほか、年間施設供用計画書に記載のない修繕・更新を実施する必要がある場合、事業者は、市に対してその内容その他市が求める事項を通知し、当該実施を要する修繕が大規模修繕以外の修繕・更新の場合は、次の各号の定めに従うものとする。

- (1) 事業者は、自己の費用で適時にかつ適切な方法で当該修繕・更新を行うものとする。
- (2) 前号の定めにかかわらず、修繕・更新の実施に費用の支出が見込まれるものを実施する必要がある場合は、その旨を速やかに市に通知するものとする。この場合、事業者は、当該通知後10日以内に、当該修繕・更新の具体的な実施計画に関し、個別の計画書を、当該修繕・更新に関する業者見積りを添えて提出し、費用負担及び対応について市と協議のうえ、その協議に従って、事業者は、当該修繕を実施する。
- (3) 前2号の定めにかかわらず、当該修繕・更新が市の責めに帰すべき事由に基づくものであるときは、市が当該修繕・更新に要する費用を負担する。

- 3 事業者は、本件施設の修繕・更新を行った場合、当該修繕・更新の内容を業務報告書に記載して市に報告し、市の求めに従って市の立会での確認を受けるほか、当該修繕・更新の完了後速やかに施設管理台帳、設計図書及び完成図書に反映し、常に最新の設備等の状態が分かるように使用した設計図、完成図等の書面とともに事業者において保管し、市の求めがある場合には速やかに市に提出する。

(非常時又は緊急時の対応等)

第51条 事業者は、要求水準書及び事業者提案に従い、非常時又は緊急時の対応が必要となる事態が発生した場合、維持管理業務マニュアルに基づき、発生した事態に応じて直ちに必要な措置を講じるとともに、市及び関係機関に報告するものとする。なお、大規模災害等が発生した場合（倉敷市以外の近隣の地方公共団体が被災した場合を含む。）であって、市が必要であると判断したとき（以下「災害発生時」という。）には、事業者は受付時間、利用時間その他施設供用業務実施時間の延長をし、24時間体制で対応できるように災害等への対応の支援を行うものとし、これに

備え、火葬炉燃料が供給可能な場合は3日間の連続火葬(28件/日を3日間)に対応できるように、事業者の費用と責任で、発電設備による電源供給を含め、火葬炉燃料の備蓄や必要物品等を常備するか直ぐに調達できるようにするものとする。

- 2 事業者が本件施設の不具合及び故障等を発見した場合、又は市の職員等により本件施設の不具合及び故障等に関する通報や苦情を受けた場合、事業者は、直ちに市と協議のうえで発生した事態に応じて直ちに必要な措置を講じるものとする。この場合において、緊急に対処する必要があると判断した場合は、事業者は、速やかに適切な応急処置を行ったうえで、市に報告するものとする。ただし、軽微なものについては、その直後に提出される維持管理業務報告書の提出をもって市に対する報告に代えることができるものとする。
- 3 前各項の定めるところに従って実施された業務により発生した増加費用及び事業者が被った損害は、本契約に別段の定めがない限り、事業者が負担するものとする。ただし、災害発生時の対応について市が事業者と協議の上で決定した費用は、入札説明書等の定めるところに従い、市が合理的な範囲において負担するものとする。

第2節 モニタリング

(セルフモニタリング)

第52条 事業者は、自己の責任と費用負担において、入札説明書等の定めるところに従い、事業者提案に基づき、本件施設が要求水準書の定める公害防止に係る基準を満たしているかを確認するため、毎年2回の排ガスの測定、毎年1回の悪臭、騒音、振動の測定による要求水準書の定める火葬炉の性能試験を実施するほか、入札説明書等及び事業者提案に基づき、アンケート等により利用者の意見や要望を聞き取るなど定期的に施設供用業務に係るセルフモニタリングを実施し、その結果を市に報告するものとする。なお、要求水準書の定める定期検査として実施される性能試験の実施要領とその結果報告については、第29条第1項が準用されるものとし、その他のセルフモニタリング結果については次項の定めるところに従って提出される維持管理業務報告書（四半期）において市に報告されるものとする。

- 2 事業者は、要求水準書その他の適用のある入札説明書等及び事業者提案並びに第33条に定める施設供用業務マニュアルに基づき、自己の施設供用業務の実施状況を管理し、維持管理期間中、別紙10（業務報告書の構成及び内容）第1項の定めるところに従って、本件施設の維持管理状況を正確に反映した維持管理業務報告書を、また、別紙10（業務報告書の構成及び内容）第2項の定めるところに従って、本件施設の運営状況を正確に反映した運営業務報告書（維持管理業務報告書及び運営業務報告書を総称して「業務報告書」という。）をそれぞれ作成・保管のうえ、市に提出するものとする。

(市によるモニタリングの実施)

- 第53条 市は、自らの責任及び費用負担において、施設供用業務に関し、本件施設が利用可能であること並びに要求水準書に示された業務の水準及び内容（ただし、事業者提案がより優れた又はより厳しい水準又は内容を提案しているものについては、提案された水準とする。以下「業務水準」という。）に従ったサービスが提供されていることを確認するため、別紙12（サービス購入料の減額の基準と方法）に示す方法によりモニタリングを実施するものとする。
- 2 市は、前項の確認の結果、本件施設の施設供用業務の遂行状況が業務水準を満足していないか又は第33条に定める施設供用業務マニュアルに従っていないと判断した場合、事業者に対してその改善を勧告することができるものとする。当該改善勧告が行われた場合、事業者は、別紙12（サービス購入料の減額の基準と方法）の規定に従い市の指示する期間内にそれに対応する改善計画書を作成し、市に対して提出したうえ、改善措置をとるものとし、また、第52条の定めるところに従い作成及び提出される業務報告書において、その対応状況を市に対して報告する。
- 3 市は、モニタリングの実施を理由として、本事業の実施の全部又は一部について、何ら責任を負担するものではない。

（損害の発生）

- 第54条 事業者は、本件施設の施設供用業務の遂行に際して、市又は第三者に損害、損失、費用等（本件施設の滅失若しくは毀損等に起因する市の損害を含む。本条において「損害等」という。）が発生したこと又は発生するおそれを認識した場合、損害等の発生又は拡大を防止するために必要な合理的な措置を講じたうえで、その旨を市に対して直ちに通知し、市の指示に従うものとする。この場合において、事業者は、市又は第三者が被った当該損害等の一切を負担するものとし、市又は第三者の請求があり次第直ちに、これを賠償又は補償するものとする。ただし、当該損害等の発生が市民その他第三者の責めに帰すべき場合又はその他の事業者の責めに帰すべからざる事由に起因する場合には、事業者は、当該損害等を賠償又は補償する義務その他の責任を負わないものとする。
- 2 事業者は、前項に定める損害賠償に係る債務を担保するため、維持管理期間につき、自己又は施設供用業者をして、別紙7（事業者等が付保する保険）第3項にその概要が記載される保険に加入し又は加入させるものとする。
- 3 前項の定めるところに従って保険に加入し又は加入させた場合、事業者は、当該保険に係る保険証券又はその他の書面で保険の内容を示すものを、その加入後速やかに、市に提出して、市の確認を受けなければならない。

第7章 サービス購入料の支払

（サービス購入料の支払）

第55条 市は、事業者に対して、別紙11（サービス購入料の金額と支払スケジュール）に定めるところの算定方法及びスケジュールに従い、サービス購入料を支払うものとする。なお、サービス購入料債権は一体不可分のものであるが、当該債権に基づき支払われるサービス購入料は、施設整備費及び施設供用業務の遂行に係る対価に分割して計算するものとする。

（サービス購入料の改定）

第56条 前条にかかわらず、サービス購入料は、別紙11（サービス購入料の金額と支払スケジュール）に定めるところに従い改定される。

（サービス購入料の減額）

第57条 第53条の定めるところに従い行われたモニタリングの結果、本件施設の施設供用業務につき業務水準を満たしていない事項が存在することが市に判明した場合、市は、事業者に対して、別紙12（サービス購入料の減額の基準と方法）に定めるところに従い、当該事項の改善又は復旧を行うよう勧告することができ、また、サービス購入料のうち施設供用業務遂行に係る対価の減額、返還若しくは支払留保又は業務担当企業の変更を請求することができる。この場合、事業者は、かかる市の勧告及び請求に従うものとする。

第8章 契約の終了

（契約期間）

第58条 本契約の契約期間は、本契約成立日から令和26年3月31日までとする。ただし、本契約の定めるところに従って本契約が解除されたときは、本契約は、その時点において終了するほか、市が本条例又は本契約に定める条件に従い本指定を取り消した場合、本契約は、他に特段の手続を要せず、当該指定取消しの効力が生ずると同時に当然に終了する。

- 2 事業者は、本契約に別段の定めがある場合を除き、本契約の終了に当たっては、(i)本件施設の全てが、要求水準書で提示した性能及び機能を発揮でき、著しい損傷がない状態とし、かつ、(ii)本事業期間終了時における建物（建築、機械設備、電気設備及び燃料保管設備）及び火葬炉が、概ね2年以内の大規模修繕又は更新を要しないと判断できる状態であることを基準として、契約期間終了日の概ね3年前より、事業者が本件施設の明渡しの時点で確保すべき状態について市との間の協議に応じ、かかる協議を経て市が決定した本件施設の状態とした上で、本件施設を市に対して引き継ぐものとする。
- 3 事業者は、本契約の終了に当たり、市と協議のうえ日程を定め、市の立会いの下に前項に定める状態の満足についての確認を受けるほか、本契約の終了後、市が効

率的に適切な修繕・更新等に取り組むことができるよう、また、次期管理者が本件施設の維持管理業務を円滑かつ支障なく遂行しかつ本件施設を継続使用し円滑に運営できるよう、本事業期間の終了の6か月前から本件施設の施設供用業務の遂行に関して必要な事項を説明し、かつ事業者が用いた施設供用業務に関する施設管理台帳、操作要領、申し送り事項その他の資料を提供するとともに、施設供用業務の承継に必要な「引継マニュアル」を本事業期間終了の6か月前までに作成し、市に提出するほか、引継ぎに必要な協力・支援等を行うものとする。かかる引継ぎについて、事業者は、引継ぎ内容が不十分であることに起因した事故等を防止するため、危険注意箇所等について十分確認を行うとともに、本件施設の利用予約に関する情報その他本件施設の管理運営に必要な情報を遅滞なく次期運営者へ提供するなど、引継ぎに遺漏のないようにしなければならない。

- 4 事業者は、要求水準書及び事業者提案に基づき、本事業期間終了3年前までに、維持管理業務の遂行過程で実施された修繕・更新を全て反映した完成図書及び施設管理台帳の最新版を本契約の定めるところに従って提出するとともに、本件施設の状況についてチェック・評価し、(i)建築物(設備等を含む)及び諸施設、外構、植栽など本件施設の全体について各部位・部材の消耗具合を具体的に記載した「建物等診断報告書」、(ii)本事業期間中に行った修繕・更新内容について一覧にするるとともに、完成図書における該当箇所を図示した「修繕記録報告書」、(iii)本事業終了後に市が行う必要と認められる大規模修繕について、対象物の耐用年数、消耗度等に照らし、各部分の修繕時期、概算経費を示した「事業期間終了後の長期修繕提案書」、及び、(iv)その他の事業者提案に基づく資料等を市が合理的に満足する様式及び内容で作成し、市に提出したうえで、本事業期間終了後に次期管理者が施設供用業務を円滑かつ支障なく遂行できるよう、本件施設の引渡しに必要な事項について市との間で協議を開始するほか、本事業期間終了1年前に、時点修正を行った上記(iii)記載の「事業期間終了後の長期修繕提案書」を改めて市に提出するものとする。
- 5 事業者は、本事業期間終了後1年間について、建物・設備維持管理企業をして、連絡窓口として、次期管理者その他本件施設に係る業務の引継ぎ先からの問い合わせを受けさせるほか、市が求める必要なサポート業務を実施させるものとする。

(市の事由による解除)

第59条 市は、本事業の実施の必要がなくなった、又は本件施設の転用が必要となったと認める場合には、180日以上前に事業者へ通知のうえ、本指定を取り消し、本契約の全部(一部は不可。ただし、市による完成確認が完了している部分は除く。以下同じ。)を解除することができる。

(事業者の債務不履行等による解除等)

第60条 次の各号の一に該当するときは、市は、特段の催告をすることなく、本指定

をせず、又は取り消し、本契約の全部を解除することができる。

- (1) 事業者が、設計業務若しくは本件工事又は第42条第1項に基づく履行の追完に着手すべき時期を過ぎてもそれらに着手せず、かつ市が相当の期間を定めて催告しても、当該遅延につき事業者から市が満足する説明が得られないとき。
- (2) 供用開始予定日から60日が経過しても施設供用業務の着手ができないとき、又は供用開始予定日から60日以内に施設供用業務に着手できる見込みがないことが明らかであるとき。
- (3) 事業者が、破産、会社更生、民事再生又は特別清算の手続の開始その他これらに類似する倒産手続の開始の申立てを取締役会において決議したとき、又は第三者（事業者の取締役を含む。）によって、当該申立てがなされたとき。
- (4) 事業者が、第52条の定めるところに従い作成する業務報告書に著しい虚偽の記載をしたとき。
- (5) 事業者が本契約上の義務に違反し、かつ市が相当期間を定めて催告したにもかかわらず、当該相当期間内にその違反が治癒されないとき。ただし、その催告期間を経過した時における本契約上の義務の違反が本契約及び取引上の社会通念に照らして軽微であるときは、この限りでない。
- (6) 市により基本協定が解除されたとき。
- (7) 前各号に規定する場合のほか、事業者が本契約上の義務に違反し、その違反により本事業の目的を達することができないと認められるとき（以下を含むが、これに限られない。）。
 - ア 本施設の完成、本件施設の運営その他本事業の遂行ができないことが明らかであるとき。
 - イ 引き渡された本施設に契約不適合がある場合において、その契約不適合が本施設を除却した上で再び建設しなければ、本事業の目的を達成することができないものであるとき。
 - ウ 事業者が施設整備業務又は施設供用業務の履行を拒絶する意思を明確に表示したとき。
 - エ 事業者の債務の一部の履行が不能である場合又は事業者がその債務の一部の履行を拒絶する意思を明確に表示した場合において、残存する部分のみでは本事業の目的を達することができないとき。
 - オ 契約の目的物の性質や当事者の意思表示により、特定の日時又は一定の期間内に履行しなければ契約をした目的を達することができない場合において、事業者が履行をしないでその時期を経過したとき。
 - カ 前記に掲げる場合のほか、事業者がその債務の履行をせず市が催告をしても本契約をした目的を達するのに足りる履行がされる見込みがないことが明らかであるとき。
- (8) 事業者が次のいずれかに該当するとき。
 - ア 役員等（事業者の役員又はその支店若しくは常時建設工事の請負契約を締結

する事務所の代表者をいう。以下本号において同じ。）が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第6号に規定する暴力団員（以下本号において「暴力団員」という。）であると認められるとき。

イ 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下本号において同じ。）又は暴力団員が経営に実質的に関与していると認められるとき。

ウ 役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしたと認められるとき。

エ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。

オ 役員等が暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

カ 下請契約又は資材、原材料の購入契約その他の契約に当たり、その相手方がイからホまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。

キ 事業者が、アからオまでのいずれかに該当する者を下請契約又は資材、原材料の購入契約その他の契約の相手方としていた場合（カに該当する場合を除く。）に、市が事業者に対して当該契約の解除を求め、事業者がこれに従わなかったとき。

2 市は、前項各号に定めるところのほか、第53条第1項の定めるところに従って実施されたモニタリングの結果、事業者が実施する施設供用業務の水準が業務水準を満たさないと判断した場合、同条第2項の定めるところに従って事業者に対してその是正を勧告するほか、別紙12（サービス購入料の減額の基準と方法）の定めるところに従い、本指定を取り消し、本契約の全部を解除することができる。

3 事業者は、契約の履行に当たって、妨害（不法な行為等で、業務履行の障害となるものをいう。）又は不当要求（金銭の給付等一定の行為を請求する権利若しくは正当な利益がないにもかかわらずこれを要求し、又はその要求の方法、態様若しくは程度が社会的に正当なものと認められないものをいう。）を受けた場合は、警察へ被害届を提出しなければならない。

4 第1項各号に定める場合が市の責めに帰すべき事由によるときは、市は、第1項の規定による本契約の解除をすることができない。

（市の債務不履行による解除等）

第61条 市が本契約上の義務に違反し、かつ事業者による通知の後60日以内に当該違反を改善しない場合、事業者は、本契約の全部を解除することができる。この場合、

事業者は、市に対して、本指定の取消しを求めることができ、市は、かかる取消しの求めに応じて、本指定を取り消すものとする。

- 2 市が本契約の定めるところに従って履行すべきサービス購入料その他の金銭の支払を遅延した場合、当該支払うべき金額につき、遅延日数に応じ、法定率を乗じて計算した額（1年を365日として日割計算とする。）を事業者に対し遅延損害金として支払うものとする。
- 3 第1項に定める場合が事業者の責めに帰すべき事由によるときは、事業者は、第1項の規定による本契約の解除をすることができない。

(法令変更及び不可抗力)

第62条 法令変更若しくは不可抗力により、損害、損失を被ったとき、又は費用を負担したとき、本契約及び業務水準に従って本件施設の整備若しくは解体施設の解体・撤去等ができなくなったとき、施設整備業務、解体・撤去等業務若しくは施設供用業務の遂行ができなくなったときその他本事業の実施が不可能となったと認められる場合、又は、法令変更若しくは不可抗力により、本契約及び業務水準に従って本件施設の整備若しくは解体施設の解体・撤去等又は施設整備業務、解体・撤去等業務若しくは施設供用業務を遂行するためその他本事業の実施に追加的な費用が必要な場合、事業者は市に対して、速やかにその旨を通知するものとし、市及び事業者は、本契約及び要求水準書の変更並びに損害、損失及び費用の負担その他必要となる事項について、協議するものとする。

- 2 法令変更又は不可抗力が生じた日から60日以内に前項の協議が調わない場合、市は事業者に対して、当該法令変更又は不可抗力に対する対応を指図することができる。事業者は、当該指図に従い、本事業を継続するものとし、また、損害、損失又は費用の負担は、別紙8（不可抗力による損害、損失及び費用の負担割合）及び別紙13（法令変更による費用の負担割合）に記載する負担割合によるものとする。
- 3 前項の定めるところにかかわらず、法令変更又は不可抗力が生じた日から60日以内に第1項の協議が調わない場合、市は、本契約の全部又は一部を解除することができるものとする。
- 4 市は、第14条第3項第3号及び第4号、第35条第2項第3号及び第4号、第37条第1項第3号及び第4号、並びに第39条第3項の規定による市の損害、損失又は費用の負担が過大になると判断した場合には、本契約の全部又は一部を解除することができるものとする。
- 5 市は、前2項に基づき本契約を解除することができる場合、事業者に書面で通知することにより、次のいずれかの措置を講じることができる。
 - (1) 市は、行政手続法（平成5年法律第88号）第13条に定める手続を行った上で、本指定を取り消すことができる。
 - (2) 市は、本事業を継続することが合理的と判断した場合、事業者の株主をして、事業者の全株式を、市が認める条件で、市が承認する第三者へ譲渡させること

ができる。

（特別措置等によるサービス購入料の減額）

第63条 法令変更により、要求水準書又は事業者提案の変更が可能となり、当該変更によってサービス購入料の減額が可能な場合、市及び事業者は、協議により要求水準書又は事業者提案について必要な変更を行い、サービス購入料を減額するものとする。

2 本契約に規定されたもの以外でP F I 事業に関する特別な措置（事業者の税の軽減を目的とする措置を含む。）が生じた場合、市及び事業者は、サービス購入料の減額を目的として、その算定方法及び支払条件等について見直しのための協議を行うものとし、協議が調ったときは、サービス購入料を減額するものとする。

（引渡日前の解除の効力）

第64条 引渡日（同日を含まない。）前に第59条ないし第62条の定めるところにより本契約が解除された場合、本契約は将来に向かって終了するものとし、市及び事業者は、以下の各号に定めるところに従って、本件施設（出来形部分を含む。）を取り扱うものとする。

(1) 第60条に定めるところにより本契約が解除された場合で、市が当該解除後に本件施設を利用するときは、市は、事業者の費用負担において、市による完成確認が未了の本件施設を検査したうえで、検査に合格した本件施設の全部又は一部（以下「合格部分」という。）のうち事業者に所有権が帰属している部分を事業者から買い受け、引渡しを受けること、若しくは施設整備に要した費用の対価を支払うこと又はその両方を行うことができるものとする。市が合格部分を買受け又は整備に要した費用の対価を支払する場合、市は、その対価の支払債務と、第66条第1項及び第2項に基づく事業者に対する支払請求権とを対当額で相殺することができるが、なお、残額があるときは、支払時点までの利息（法定率の割合とし、1年を365日とした日割計算により算出する。）を付したうえで、一括払又は分割払により事業者に対して支払うものとする。また、これにより市に回復されない損害があるときは、その部分について、市は事業者に対し損害賠償請求できる。また、既に市による完成確認が完了している本施設については、市は事業者に対して、施設整備費を別紙11（サービス購入料の金額と支払スケジュール）に定めるところに従い支払うものとする。

(2) 第59条又は第61条の定めるところに従って本契約が解除された場合、市は、自己の費用負担において、市による完成確認が未了の本件施設を検査したうえで、合格部分のうち事業者に所有権が帰属している部分を事業者から買い受け、引渡しを受け、若しくは施設整備に要した費用の対価を支払又はその両方を行うものとする。この場合、市は事業者に対して、その対価及び第66条第6項に定めるところの損害賠償額の総額に支払時点までの利息（法定率の割合とし、1年を365

日とした日割計算により算出する。)を付したうえ、一括払又は分割払により支払う。なお、既に市による完成確認が完了している本施設については、市は事業者に対して、施設整備費を別紙 11（サービス購入料の金額と支払スケジュール）に定めるところに従い支払うものとする。

- (3) 第62条の定めるところに従って本契約が解除された場合、市は、自己の費用負担において、市による完成確認が未了の本件施設を検査したうえで、合格部分のうち事業者にも所有権が帰属している部分を事業者から買い受け、引渡しを受け、若しくは施設整備に要した費用の対価を支払又はその両方を行うものとする。この場合、市は事業者に対し、その対価に支払時点までの利息（法定率の割合とし、1年を365日とした日割計算により算出する。）を付したうえ、一括払又は分割払により支払う。なお、既に市による完成確認が完了している本施設については、市は事業者に対して、サービス購入料のうち、施設整備費を別紙11（サービス購入料の金額と支払スケジュール）に定めるところに従い支払うものとする。
- (4) 前3号に定めるところの検査に際して市が必要と認めるときは、市は、その理由を事前に事業者に対して通知したうえ、本件施設を最小限度破壊して検査することができる。

2 前項にかかわらず、引渡日（同日を含まない。）前に本契約が解除された場合で、本件工事の進捗状況を考慮して、本事業用地の部分的な更地化若しくは原状回復又はその両方が社会通念上合理的であると市が判断したときは、市は事業者に対して、そのいずれかを請求することができ、事業者はこれに従うものとする。この場合、解除が第 59 条、第61条又は第62条に基づくときは、市がその費用相当額及び第66条第 6 項に定めるところの損害賠償額並びにそれらの総額に付されるべき支払時点までの利息額（法定率の割合とし、1年を 365 日とした日割計算により算出する。）を負担するものとし、第 60 条に基づくときは、事業者がその費用相当額並びに第66条第 1 項及び第 2 項に基づく支払額、並びにそれらの総額に付されるべき支払時点までの第81条に基づく遅延損害金を負担するものとする。ただし、事業者が正当な理由なく相当の期間内に係る更地化若しくは原状回復又はその両方を行わないときは、市は事業者に代わりそのいずれかを行うことができるものとし、これに要した費用については、第60条による解除の場合は事業者がこれを負担し、市の求めるところに従って支払うものとする。この場合、事業者は、市の処分について異議を申し出ることができない。

3 本件施設のうち施設供用業務が着手されている部分がある場合、当該施設供用業務の対象となっている本件施設に関する限りにおいて、次条第 2 項及び第 3 項並びに第 4 項第 3 号第 2 文を準用する。

（引渡日後の解除の効力）

第65条 引渡日（同日を含む。）後に第59条ないし第62条の定めるところにより本指定が取り消され本契約が解除された場合、本契約は、将来に向かって終了する。こ

の場合、市は、第40条に定めるところに従って引渡しを受けた本件施設の所有権を引き続き所有するものとする。

- 2 前項の場合、市は、本契約が解除された日から10日以内に本件施設の現況を検査したうえ、本件施設に事業者の責めに帰すべき事由による損傷等が認められたときは、事業者に対してその修補を求めることができる。事業者は、その費用負担において本件施設の修補を実施するものとし、修補完了後、速やかに市に対してその旨を通知するものとする。市は、当該通知の受領後10日以内に修補の完了検査を行うものとする。
- 3 前項の手続終了後、事業者は、速やかに施設供用業務を、市又は市の指定する者に引き継ぐものとし、市又は当該第三者が施設供用業務を引き継ぐために必要な一切の行為を行うものとする。
- 4 前項の定めるところに従って、市が施設供用業務を引き継いだ後、市及び事業者は、以下の各号に定めるところに従って、サービス購入料を取り扱うものとする。
 - (1) 本契約の解除が第60条の規定に基づくときは、市は事業者に対し、サービス購入料のうち未払の施設整備費を、別紙11（サービス購入料の金額と支払スケジュール）の定めるところに従い支払う。ただし、事業者の責めに帰すべき事由により本件施設が損傷しており、修繕を施しても利用が困難であると客観的に判断され、かつ市の被る損害額が未払の施設整備に係る対価を上回る場合には、市は、サービス購入料のうち未払の施設整備費に相当する部分の支払期限が到来したものとみなして、当該対価と損害額とを相殺することにより、サービス購入料のうち未払の施設整備費の支払義務を免れることができるものとする。なお、これにより市のその余りの損害賠償の請求は、妨げられないものとする。
 - (2) 本契約の解除が第59条又は第61条の規定に基づくときは、市は事業者に対し、サービス購入料のうち未払の施設整備費を別紙11（サービス購入料の金額と支払スケジュール）の定めるところに従い支払うとともに、第66条第6項に定めるところの損害賠償額の総額及びそれに付すべき支払時点までの利息（法定率の割合とし、1年を365日とした日割計算により算出する。）を、一括払又は分割払により事業者に対し支払うものとする。
 - (3) 本契約の解除が第62条の規定に基づくときは、市は事業者に対し、サービス購入料のうち未払の施設整備費を、別紙11（サービス購入料の金額と支払スケジュール）の定めるところに従い支払うものとする。また、市は事業者が施設供用業務を終了させるために要する費用を事業者に対して支払うものとする。
 - (4) 事由の如何を問わず、本契約の解除日以降、市は、施設供用業務に係るサービス購入料のうち未払のもの支払義務を免れるものとし、本契約の解除日が属する支払対象期間に関する施設供用業務に係るサービス購入料に関しては、実働ベースで精算を行って支払を行うものとする。

(契約が解除された場合等の違約金等)

第66条 市は、事業者が次の各号のいずれかに該当するときは、これによって生じた損害の賠償を請求することができる。

- (1) 供用開始予定日までに本施設の引渡しを完了することができないとき。
- (2) 第58条第1項に定める本契約の契約期間満了日までに、同条第2項乃至第4項の定めるところに従って本件施設の明渡及び業務の引継ぎをいずれも完了できないとき。
- (3) 本施設に契約不適合があるとき。
- (4) 第60条第1項又は第2項の規定により本契約が解除されたとき。
- (5) 事業者がその債務の履行を拒否し、又は事業者の責めに帰すべき事由によって事業者の債務について履行不能となったとき。
- (6) 前各号の定める場合を除き、事業者がその債務の本旨に従った履行をしないとき、又は事業者の債務について履行不能となったとき。

2 前項第4号又は第5号のいずれかに該当する場合、その場合の時期に応じて、事業者は、次の各号に定める額を違約金として市の指定する期限までに支払うものとする。なお、当該違約金の定めは損害賠償額の予定ではなく、前項第4号又は第5号に該当することにより市が被った損害のうち、当該違約金により回復されないものがあるときは、その部分について市が事業者に対して損害賠償の請求を行うことを妨げないものとする。

- (1) 引渡日（同日を含まない。）までに
サービス購入料のうち、施設整備費から割賦金利相当額を控除した金額の10分の1に相当する額
- (2) 引渡日（同日を含む。）以降に
解除日が属する事業年度において支払われるべき施設供用業務に係るサービス購入料総額の10分の1に相当する額

3 次の各号に掲げる者が本契約を解除した場合は、第1項第5号に該当する場合とみなす。

- (1) 事業者について破産手続開始の決定があった場合において、破産法（平成16年法律第75号）の規定により選任された破産管財人
- (2) 事業者について更生手続開始の決定があった場合において、会社更生法（平成14年法律第154号）の規定により選任された管財人
- (3) 事業者について再生手続開始の決定があった場合において、民事再生法（平成11年法律第225号）の規定により選任された再生債務者等

4 第1項各号又は第2項各号に定める場合（前項の規定により第2項第2号に該当する場合とみなされる場合を除く。）が本契約及び取引上の社会通念に照らして事業者の責めに帰することができない事由によるものであるときは、第1項及び第2項の規定は適用しない。

5 第2項の場合（第60条第1項第8号の規定により、本契約が解除された場合を除く。）において、第9条の規定により契約保証金の納付又はこれに代わる担保の

提供が行われているときは、市は、当該契約保証金又は担保をもって第2項の違約金に充当することができる。

- 6 第59条又は第61条の規定により本契約が解除された場合、市は、当該解除により事業者が被った損害額を、事業者の請求するところに従って支払うものとする。ただし、本契約及び取引上の社会通念に照らして市の責めに帰することができない事由によるものであるときは、この限りでない。

（保全義務）

第67条 事業者は、解除の通知がなされた日から第64条第1項各号による引渡し又は第64条第3項若しくは第65条第3項による施設供用業務の引継ぎ完了のときまで、本件施設（出来形部分を含む。）について、自らの責任及び費用負担において、合理的な保全措置をとらなければならない。

（関係書類の引渡し等）

第68条 事業者は、第64条第1項第1号ないし第3号に基づく引渡し又は第65条第3項（第64条第3項により準用される場合を含む。）に基づく施設供用業務の引継ぎの完了と同時に、市に対して、設計図書及び完成図書（ただし、既に事業者が提出しているものを除く。また、本契約が本件施設に係る施設供用の実施開始前に解除された場合、図面等については事業者が既に作成を完了しているものに限る。）その他本件施設の整備及び修補に係る書類並びに施設供用業務の遂行に必要な書類の一切を引き渡すものとする。

- 2 市は、前項に基づき提出を受けた図書等を施設供用業務の遂行のために、無償で自由に使用（複製、頒布、改変及び翻案を含む。以下本項において同じ。）することができるものとし、事業者は、市による当該図書等の自由な使用が、第三者の著作権及び著作者人格権を侵害しないよう必要な措置をとるものとする。

（所有権の移転）

第69条 事業者は、第64条第1項第1号ないし第3号に基づき本件施設又はその出来形の所有権を市に移転する場合、担保権その他の制限による負担のない、完全な所有権を市に対して移転しなければならない。

第9章 雑則

（公租公課の負担）

第70条 本契約に関連して生じる公租公課は、本契約に別段の定めがある場合を除き、事業者がこれを負担するものとする。ただし、本契約締結時点において市及び事業者が予測不可能であると認められる新たな公租公課の負担が事業者に発生した場合、

事業者は、その負担及び支払方法について、市と協議することができる。

（運営会議）

第71条 市及び事業者は、運営期間中必要に応じて、市及び事業者の各当事者により選任された構成員による運営会議を開催し、本事業内容の業務報告及び意見交換等を行う。

2 事業者は、要求水準書に従い、総括責任者、運営業務責任者及び維持管理業務責任者並びに市が必要として求める関係者を運営会議に出席させるものとする。

3 市及び事業者は、前各項の定めるところに従うほか、別途定められた運営会議設置要綱に従って、運営会議を運営するものとする。

（金融機関等との協議）

第72条 市は、本事業の継続性を確保するため、事業者に対し資金提供を行う金融機関等と協議を行い、直接協定を締結することができる。

（財務書類の提出）

第73条 事業者は、本契約の終了に至るまで、毎会計年度の最終日から3か月以内に、当該会計年度に係る計算書類等に公認会計士又は監査法人の監査報告書を添付し、市に提出しなければならない。

（秘密保持）

第74条 市及び事業者は、互いに本事業に関して知り得た相手方の秘密の内容を自己の役員及び従業員又は自己の代理人又は事業者に対して資金提供を行う金融機関若しくはコンサルタント以外の第三者に漏らし、また、本契約の履行以外の目的に使用してはならない。ただし、本事業に関して知る前に既に自ら保有していたもの、本事業に関して知る前に公知であったもの、本事業に関して知った後自らの責めによらないで公知となったもの、本事業に関して知った後正当な権利を有する第三者から何らの秘密保持義務を課せられることなしに取得したものについては、秘密保持義務の対象から除くものとする。

（著作権等）

第75条 事業者は、市に対し、市の裁量により、本事業期間中及び本事業期間終了後も、次に掲げる行為を行うことを無償で許諾する。

(1) 市が本件施設の内容を公表すること。

(2) 設計図書を利用すること。

2 事業者は、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、あらかじめ、市の承諾を得た場合はこの限りではない。

(1) 本件施設の内容を公表すること。

(2) 本件施設に事業者の実名又は変名を表示すること。

（著作権の侵害防止）

第76条 事業者は、本件施設が、第三者の有する著作権を侵害するものでないことを市に対して保証する。

2 事業者は、その作成する成果物が第三者の有する著作権を侵害する場合、自己の責任及び費用負担において、第三者に対して損害を賠償し、その他必要な措置を講じなければならない。

（産業財産権）

第77条 事業者は、本事業において特許権その他産業財産権の対象となっている技術等を使用する場合、自己の責任及び費用負担においてそれを使用するものとする。ただし、市がその使用を指定した場合で、事業者が当該産業財産権の存在を知らなかったときは、市は、事業者がその使用に関して要した費用を負担するものとし、その負担の方法は、市と事業者との間の協議においてこれを定めるものとする。

（株式等の発行制限）

第78条 事業者は、本事業期間中、市の事前の承諾を得た場合を除くほか、本契約成立日時点で事業者の株主である者以外の第三者に対して株式、新株予約権又は新株予約権付社債を発行してはならない。

（権利等の譲渡制限）

第79条 事業者は、本契約に基づき市に対して有する本事業に係る債権の全部又は一部を第三者に譲渡、質権設定その他担保提供又はその他処分することができない。ただし、市の事前の承諾を得た場合は、この限りでない。

2 事業者は、本契約その他本事業に関して市との間で締結した契約に基づき事業者が有する契約上の地位の全部又は一部を第三者に譲渡、質権設定その他担保提供又はその他処分することができない。ただし、市の事前の承諾を得た場合は、この限りでない。

（事業者の兼業禁止）

第80条 事業者は、本契約に規定された業務以外の業務を行ってはならない。ただし、市の事前の承諾を得た場合は、この限りでない。

（遅延利息）

第81条 事業者が本契約に基づき行うべき市への支払を遅滞した場合、事業者は、未払額につき遅延日数に応じ法定率（1年を365日とする日割計算とする。）で計算した額の遅延利息を付したうえで、市に対して支払うものとする。

（要求水準書の変更）

第82条 市は、設計変更及び第62条の場合のほかに、次の各号所定の事由が生じた場合、次項の定める手続に従って、要求水準書の内容を変更することができる。

- (1) 法令変更により業務内容が著しく変更される時。
- (2) 災害・事故等により、特別な業務内容が常時必要な時、又は業務内容が著しく変更される時。
- (3) 市の事由により業務内容の変更が必要な時。
- (4) その他業務内容の変更が特に必要と認められる時。

2 要求水準書の変更は、次各号の定めに従って行われるものとする。

- (1) 市は、前項各号のいずれかに該当する場合、速やかに、その旨と要求水準書の変更内容を事業者へ通知し、事業者の意見を聴取するものとする。
- (2) 事業者は、第1号所定の通知受領後20日以内に意見書を提出するものとする。
- (3) 市は、事業者が第2号所定の意見書を期限内に提出しないときは、事業者の意見がないものとして取り扱うことができる。
- (4) 市は、事業者の意見に拘束されないものとする。ただし、事業者の意見を聴取した結果を尊重し、必要に応じて事業者の意見を反映して変更内容の修正（修正は義務ではない。）を行ったうえで確定的な変更内容を事業者へ通知することにより、要求水準書の変更を確定するものとする。
- (5) 本契約に基づく事業者への支払金額を含め事業契約書の変更が必要となる時、市は、必要な契約変更を行うものとし、事業者は、これに協力する。

（管轄裁判所）

第83条 本契約に関する紛争は、岡山地方裁判所を第一審の専属管轄裁判所とすることに合意する。

（疑義に関する協議）

第84条 本契約に定めのない事項について定める必要が生じた場合、又は本契約の解釈に関して疑義が生じた場合は、その都度、市及び事業者が誠実に協議のうえ、これを定めるものとする。

（その他）

第85条 市及び事業者は、本契約に別段の定めがある場合を除くほか、本契約に基づいて相手方に対して行う請求、通知、報告、申出、承諾、勧告、催告及び解除その他一切の意思表示又は観念若しくは事実の通知を、書面をもって行うものとする。なお、市及び事業者は、当該請求等の宛先を各々相手方に対して別途通知するものとし、本事業期間中に変更された場合、直ちに相手方に通知するものとする。

2 本契約の履行に関して市と事業者間で用いる言語は、日本語とする。

- 3 本契約に定める金銭の支払に用いる通貨は、日本円とする。
- 4 本契約の履行に関して市と事業者間で用いる計算単位は、設計図書に特別の定めがある場合を除き、「計量法」（平成4年法律第51号）に定めるものとする。
- 5 本契約上の期間の定めは、「民法」（明治29年法律第89号）及び「商法」（明治32年法律第48号）が規定するところによるものとする。
- 6 本契約は、日本国の法令に準拠し、日本国の法令に従って解釈される。
- 7 本契約の定めるところに従って事業者が市に対して書面で提出することを要する届出、通知、計画、報告、図面、図表その他の書類の内容及び体裁（図面等のデータを記録した市の指定する記録媒体を添付することを含む。）、部数等については、本契約に別段の定めがない限り、市が別途指定するところに従うものとする。
- 8 本契約の定める指定日又は期限満了日が市の開庁日でない場合には、当該指定日又は期限満了日は翌開庁日となるものとする。

（以下余白）

別紙1 事業日程

（第4条、第28条第1項、第30条第1項及び第31条第1項並びに第2項関係）

1	基本設計図書の提出期限	令和___年___月___日
2	実施設計図書の提出期限	令和___年___月___日
3	本件工事着工予定日	令和___年___月___日
4	本施設に係る本件工事完工予定日	令和5年12月末日
5	本施設の引渡予定日	令和6年3月末日
6	供用開始予定日	令和6年4月1日
7	解体・撤去等業務着手予定日	令和6年4月1日
8	解体・撤去等業務完了予定日	令和6年8月末日
9	契約終了日（施設供用業務終了日）	令和26年3月末日

以上

別紙2 本事業用地

(第5条関係)

項目	内容
建設地	岡山県倉敷市福田町福田 434 番地 1
都市計画決定	昭和 51 年 10 月 27 日 面積 13.70ha 処理能力 42 件/日で都市計画決定済であり、区域の変更が生じない限り、改めての手続きは不要。
事業区域	19,864.84 m ² (平場部分) 及び進入路、雨水排水施設 (要求水準書「資料 2-2, 6」を参照) ※事業区域外に本件工事中に利用可能な仮設可能エリアについては、要求水準書「資料 12」を参照のこと。
都市計画区域	市街化調整区域
用途地域	指定なし
防火地域	指定なし
建ぺい率	60%
容積率	200%
山地災害危険地区	崩壊土砂流出危険地区
土地の所有者	市
土地上の施設	下記のとおり

本事業用地上の既存施設 (現斎場) 概要

項目	内容	
所在地	岡山県倉敷市福田町 434 番地 1	
開設年月日	昭和 55 年 4 月	
敷地面積	19,864.84 m ²	
建築面積	2,721.60 m ²	
延床面積	3,420.00 m ²	
構造	鉄筋コンクリート造平屋建 一部 2 階建	
火葬炉数	火葬炉 14 基、汚物炉 1 基、動物炉 2 基	
休場日	1 月 1 ~ 3 日及び毎月第 2、4 友引の日 年間開場日数 約 330 日	
施設内容	中央棟 (火葬場棟)	告別室 (3 室)、炉前ホール (1 室)、収骨室 (3 室)、炉室 (火葬炉 14 基、汚物炉 1 基)、倉庫等
	ペット火葬棟	炉前ホール (1 室)、炉室 (動物炉 1 基)
	斎場棟 (式場棟)	斎場、控室等
	待合棟	待合ロビー (1 室)、待合室 (6 室)、事務室等
	駐車場	バス 5 台、普通自動車 70 台
その他	合併処理浄化槽 (補修等により既存活用の場合、解体・撤去等業務対象から除く。)、霊灰塔 (補修等により既存活用の場合、解体・撤去等業務対象から除く。)	

以上

別紙3 設計業務着手時提出書類

(第10条第4項関係)

1 基本設計業務着手時

提出書類等	提出部数
基本設計着手届	3部
基本設計工程表	3部
基本設計計画書	3部
主任技術者届	3部

2 実施設計業務着手時

提出書類等	提出部数
実施設計着手届	3部
実施設計工程表	3部
実施設計計画書	3部
主任技術者届	3部

以上

別紙4 設計図書

(第12条第1項及び第13条第1項関係)

1 基本設計業務完了時

基本設計図：	3部 (A1：1部、A3縮小版：2部)
完成予想図 (着色したもの)：	3部 (A1：1部、A3縮小版：2部)
基本設計説明書：	3部
意匠計画概要書：	3部
構造計画概要書：	3部
設備計画概要書：	3部
設計・工事工程表：	3部
工事費概算書：	3部
諸官庁協議書、打合議事録：	3部
要求水準書等チェックリスト：	3部
地質調査報告書：	3部
測量調査報告書：	3部

※ 地質調査報告書及び測量調査報告書は、市が実施したもの以外に事業者が独自に調査を行った場合のみ提出する。

※ 書類等に合わせて、それぞれ電子媒体一式2部を提出する。

2 実施設計業務完了時

実施設計図：	3部 (A1：1部、A3縮小版：2部)
実施設計説明書：	3部
工事工程表：	3部
数量調書：	3部
工事費内訳明細書：	3部
構造計算書：	3部
設備設計計算書：	3部
備品リスト、カタログ：	3部
建物求積図：	3部
許可等申請、各種届出等：	3部
諸官庁協議書、打合議事録：	3部
要求水準書等チェックリスト：	3部

※ 書類等に合わせて、それぞれ電子媒体一式2部を提出する。

以上

別紙5 着工前及び建中の提出書類

（第21条第1項及び第22条第1項関係）

1 着工前提出書類

工事实施体制	2部
工事着工届（工程表を添付）	2部
現場代理人及び監理技術者届（経歴書を添付）	2部
仮設計画書	2部
総合施工計画書	2部
使用材料一覧表	2部
工事下請負届	2部
工事施工に必要な届出等	2部

※ 着工前の提出書類は、工事監理者に提出してその承認を受けたものを市に提出する。

2 建中提出書類

各種機器承諾願の写し	2部
残土処分計画書	2部
産業廃棄物処分計画書	2部
主要工事施工計画書	2部
主要工事施工図	2部
生コン配合計画書	2部
各種試験結果報告書	2部
各種出荷証明	2部
マニフェスト管理台帳（原本との整合を工事監理者が確認済みのもの）	2部
工事記録	2部
工事履行報告書及び実施工程表	2部
段階確認書及び施工状況把握報告書	2部
工事打合せ簿	2部

※ 建中の提出書類は、工事監理者に提出してその承認を受けたものを市に提出する。

以上

別紙6 完成時の提出図書

(第30条第4項関係)

1 本件工事の目的物が本施設の場合

事業者は、市による完成確認に必要な次の完成図書を工事監理者が承諾のうえ、提出する。なお、これら図書を本件施設内に保管する。

- ・ 工事完了届 2部
- ・ 工事記録写真 2部
- ・ 完成図（建築） 一式
（製本図2部、縮小版製本2部及び左記入図面等が収録された電子媒体一式3部）
- ・ 完成図（電気設備） 一式
（製本図2部、縮小版製本2部及び図面等が収録された電子媒体一式3部並びに取扱説明書1部）
- ・ 完成図（機械設備） 一式
（製本図2部、縮小版製本2部及び図面等が収録された電子媒体一式3部並びに取扱説明書1部）
- ・ 完成図（昇降機設備） 一式
（製本図2部、縮小版製本2部及び図面等が収録された電子媒体一式3部並びに取扱説明書1部）
- ・ 完成図（火葬炉設備） 一式
（製本図2部、縮小版製本2部及び図面等が収録された電子媒体一式3部並びに取扱説明書1部）
- ・ 完成図（什器・備品配置票） 一式
（製本図2部、縮小版製本2部及び図面等が収録された電子媒体一式3部）
- ・ 備品リスト 2部
- ・ 備品カタログ 1部
- ・ 完成検査調書（事業者によるもの） 1部
- ・ 揮発性有機化合物の測定結果 1部
- ・ 完成写真（内外全面カット写真をアルバム形式及び電子媒体） 2部
- ・ 要求水準書等チェックリスト： 2部

2 本件工事の目的物が解体・撤去等業務の場合

事業者は、市による完成確認に必要な次の完成図書を提出する。なお、これら図書を本施設内に保管する。

倉敷市中央斎場施設整備事業 別添資料 事業契約書 (案)

- ・ 工事完了届 2部
- ・ 工事記録写真 2部
- ・ 完成図（解体、杭等地中残留物の記録含む。） 一式
（製本図2部、縮小版製本2部及び左記入図面等が収録された電子媒体一式2部）
- ・ 完成検査調書（事業者によるもの） 1部
- ・ 完成写真 2部

以上

別紙7 事業者等が付保する保険

(第17条、第26条第2項、第34条第1項第7号並びに第2項第4号及び第54条第2項関係)

事業者は以下の条件を満たす保険を、事業者の費用負担において付保するものとする。

ただし、保険の名称等を含めその詳細については事業者の提案によるものとし、以下の条件は市が要求する最低限の条件であり、事業者の判断に基づき、さらに担保範囲の広い補償内容とすることを妨げるものではない。

1 本施設工事期間

(1) 建設工事保険

保険の対象：工事現場において不測かつ突発的な事故によって本件工事の目的物等に生じた損害

補償限度額：施設整備費

保険期間：本件工事の着工日から引渡日まで

被保険者：工事請負人

(2) 請負業者賠償責任保険

保険の対象：本件工事（本施設の整備）の施工に伴って発生した第三者に対する損害

補償限度額：対人：1名当たり1億円、1事故当たり10億円以上

対物：1事故当たり1億円

保険期間：本件工事の着工日から引渡日まで

免責金額：10万円

被保険者：工事請負人

2 解体・撤去等業務に係る本件工事期間

(1) 請負業者賠償責任保険

保険の対象：解体・撤去等業務に係る本件工事の施工に伴って発生した第三者に対する損害

補償限度額：対人：1名当たり1億円、1事故当たり10億円以上

対物：1事故当たり1億円

保険期間：解体・撤去等業務に係る本件工事の着工日から解体・撤去等業務完了日まで

免責金額：10万円

被保険者：工事請負人

3 施設供用期間

(1) 第三者賠償責任保険

保険の対象：維持管理業務又は運營業務に伴い第三者に与えた損害について法律上の賠償責任を負担することにより被る損害を担保

補償限度額：対人：1名当たり1億円、1事故当たり10億円以上

対物：1事故当たり1億円以上

保険期間：運営期間（1年毎の更新可）

免責金額：10万円

被保険者：事業者

(2) 普通火災保険

保険の対象：事業者が設置する本件施設

補償限度額：再調達価格相当額

保険期間：引渡日の翌日から運営期間の終了日まで

免責金額：[提案による]

被保険者：事業者

上記以外に事業者提案による保険を付保すること。

以上

別紙8 不可抗力による損害、損失及び費用の負担割合

(第14条第3項第4号、第35条第2項第4号、第37条第1項第4号、
第39条第3項、第41条第3項及び第62条第2項関係)

1 本施設の引渡日まで

本施設の引渡日(同日を含む。)までに不可抗力が生じ、本施設に関して損害(ただし、事業者の得べかりし利益は含まない。以下、本別紙8(不可抗力による損害、損失及び費用の負担割合)において同じ。)、損失及び費用が発生した場合、当該損害、損失及び費用の額が累計で施設整備費の1パーセントに至るまでは事業者が負担するものとし、これを超える額については市が負担する。ただし、当該不可抗力事由により事業者の負担額を超える額の保険金が支払われた場合、当該保険金額相当額は、損害、損失及び費用の額から控除する。

2 本施設の引渡日の翌日以降

本施設の引渡日の翌日以降に不可抗力が生じ、本件施設に損害、損失及び費用が発生した場合、当該損害、損失及び費用の額が一事業年度につき累計で不可抗力が生じた日が属する事業年度において支払われるべき施設供用業務に係るサービス購入料総額の1パーセントに至るまでは事業者が負担するものとし、これを超える額については市が負担する。ただし、当該不可抗力事由により事業者の負担額を超える額の保険金が支払われた場合、当該保険金額相当額は、損害、損失及び費用の額から控除する。なお、本施設の引渡日以降であっても解体・撤去等業務に係る業務完了証交付日までに、不可抗力が生じ、解体施設その他解体・撤去等業務に係る本件工事の工事目的物に関して損害、損失及び費用(解体施設に関する損害、損失及び費用については解体・撤去等業務の遂行に悪影響のある損害又は損失並びに解体・撤去等業務の遂行のために増加する費用に限るものとし、解体・撤去等業務の遂行費用が減額される場合には、当該減額される金額を控除するものとする。)が発生した場合は、前項を適用する。

以上

別紙9 保証書の様式

（第42条第4項関係）

〔工事請負人を構成する各構成員〕（以下「保証人」という。）は、倉敷市斎場整備事業（以下「本件事業」という。）に関連して、事業者が倉敷市（以下「市」という。）との間で締結した令和____年____月____日付事業契約書（以下「本件事業契約」という。）に基づいて、事業者が市に対して負担する以下の第1条の債務（以下「主債務」という。）につき事業者と連帯して保証する（以下「本保証」といい、本保証として市に対して事業者と連帯して主債務を履行する債務を「保証債務」という。）。なお、本保証において用いられる用語は、本保証において特に定義された場合を除き、本件事業契約において定められるのと同様の意味を有するものとする。

第1条（保証）

保証人は、市に対し、本件事業契約第42条第1項及び同条第2項に基づく事業者の市に対する履行の追完（修補、備品についての取替えも含むが、市が承諾した場合に限る。）及び損害の賠償に係る一切の債務を保証する。

第2条（通知義務）

市は、本保証の差入日以降において主債務の内容に変更が生じたことを知った場合には、遅滞なく当該事由を保証人に対して通知しなければならない。本保証の内容は、市による通知の内容に従って、当然に変更されるものとする。

第3条（保証債務の履行の請求）

- 1 市は、保証債務の履行を請求しようとするときは、保証人に対して、市が定めた様式による保証債務履行請求書を送付しなければならない。
- 2 保証人は、保証債務履行請求書を受領した日から7日以内に当該請求に係る保証債務の履行を開始しなければならない。市及び保証人は、本項に規定する保証債務の履行期限を、別途協議のうえ、決定するものとする。
- 3 保証人は、主債務が金銭の支払を内容とする債務である保証債務の履行については、当該保証債務履行請求書を受領した日から30日以内に当該請求に係る保証債務の履行を完了しなければならない。

第4条（求償権の行使）

保証人は、本件事業契約に基づく事業者の債務が全て履行されるまで、保証人が本保証に基づく保証債務を履行したことにより、代位によって取得した権利を行使することができない。ただし、市及び事業者の同意がある場合は、この限りでない。

第5条（終了及び解約）

- 1 保証人は、本保証を解約することができない。
- 2 本保証は、本件事業契約に基づく事業者の債務が終了又は消滅した場合、終了するものとする。

第6条（管轄裁判所）

本保証に関する訴訟、和解及び調停に関しては、岡山地方裁判所を第一審の専属管轄裁判所とする。

以上の証として本保証書が2部作成され、保証人はこれに記名押印し、1部を市に差し入れ、1部を自ら保有する。

令和___年___月___日

保証人：

別紙 10 業務報告書の構成及び内容

（第52条関係）

1 維持管理業務報告書

(1) 維持管理業務報告書（年間）

事業者は、各事業年度終了後毎年4月末日までに、当該事業年度に係る維持管理業務全体に関する維持管理業務報告書（年間）を市に提出すること。なお、当該報告書の様式、内容等はあらかじめ市と協議して定める。

(2) 維持管理業務報告書（四半期）

事業者は、四半期ごとに、セルフモニタリング結果に基づき、当該四半期に係る維持管理業務全体の取りまとめに関する維持管理業務報告書（四半期）及び要求水準書に定める各業務に関する業務報告書（四半期）を作成し、当該四半期における最終月の翌月の末日までに、市に提出すること。なお、当該報告書の様式、内容等はあらかじめ市と協議して定める。

(3) 維持管理業務報告書（月報）

事業者は、月ごとに、当該月に係る維持管理業務全体に関する維持管理業務報告書（月報）及び要求水準書に定める各業務に関する業務報告書（月報）を作成し、翌月の5日までに、市に提出すること。なお、当該報告書の様式、内容等はあらかじめ市と協議して定める。

(4) 施設管理台帳

事業者は、維持管理業務の遂行過程で備品、設備その他施設等を修繕・更新するごとに、本契約の定めるところに従って市に提出した施設管理台帳を適宜更新し、これを市の求めに従って市に提出するほか、維持管理期間中全て保管すること。なお、当該台帳の様式、内容等は要求水準書に基づき倉敷市物品管理規則に従ってあらかじめ市と協議して定める。

(5) 運転日誌

事業者は、各種設備の運転日誌（火葬炉については、燃焼監視記録、火葬炉設備に係る備品・消耗品の管理記録、性別、年齢別火葬件数等を含む。）を作成し、毎日の記録を正確に録取し、これを市の求めに応じて市に提出するほか、維持管理期間中全て保管すること。なお、各種設備ごとの運転日誌の様式、内容等はあらかじめ市と協議して定める。

(6) 日常点検記録

事業者は、予約システムその他の各種システム並びに各種設備（火葬炉については、燃料供給設備、動力設備、燃焼設備、駆動設備、炉体、排ガス処理設備、電気計装設備、運転支援システム、附帯設備を含む。）の毎日の点検表（法定点検を含む。）を作成し、毎日の日常点検結果の記録を正確に録取し、これを市の求めに応じて市に提出するほか、事業期間中全て保管すること。なお、各種のシ

システム及び設備ごとの日常点検表とその記録の様式、内容等はあらかじめ市と協議して定める。

(7) 定期点検記録・整備記録

事業者は、予約システムその他の各種システム並びに各種設備（火葬炉については、燃料供給設備、動力設備、燃焼設備、駆動設備、炉体、排ガス処理設備、電気計装設備、運転支援システム、附帯設備を含む。）の定期的な点検表（法定点検を含む。）並びに定期点検整備記録及び故障・補修記録を作成し、定期点検の結果に基づきそれぞれ記録を正確に録取し、これを市の求めに応じて市に提出するほか、維持管理期間中全て保管すること。なお、各種のシステム及び設備ごとの定期点検表とその記録並びに定期点検整備記録及び故障・補修記録の様式、内容等はあらかじめ市と協議して定める。

(8) 事故等報告書

事業者は、要求水準書が定める事故等報告書を事故等の発生時に作成し、当該事故等の発生後直ちに、市に提出するほか、維持管理期間中全て保管すること。なお、当該報告書の様式、内容等はあらかじめ市と協議して定める。

2 運營業務報告書

(1) 運營業務報告書（年間）

事業者は、各事業年度終了後毎年4月末日までに、当該事業年度に係る運營業務全体に関する運營業務報告書（年間）を市に提出すること。なお、当該報告書の様式、内容等はあらかじめ市と協議して定める。

(2) 運營業務報告書（四半期）

事業者は、四半期ごとに、セルフモニタリング結果に基づき、当該四半期に係る運營業務全体の取りまとめに関する運營業務報告書（四半期）及び要求水準書に定める各業務に関する業務報告書（四半期）を作成し、当該四半期における最終月の翌月の末日までに、市に提出すること。なお、当該報告書の様式、内容等はあらかじめ市と協議して定める。

(3) 運營業務報告書（月報）

事業者は、月ごとに、当該月に係る運營業務全体に関する運營業務報告書（月報）及び要求水準書に定める火葬状況報告書（法令に基づく火葬状況の報告のみならず、利用者数、清掃・植栽管理等の実施結果、葬祭用品売上実績等を含むものとし、トラブル等があった場合はその内容、対応についても必ず記載されなければならない。）を作成し、翌月の5日までに、市に提出すること。なお、当該報告書の様式、内容等はあらかじめ市と協議して定める。

(4) 備品台帳

事業者は、毎会計年度の最終日から3か月以内に、本契約の定めるところに従って市に提出した備品台帳を当該会計年度の最終日現在で更新し、市に提出すること。なお、当該台帳の様式、内容等は要求水準書に基づき倉敷市物品管理規則

に従ってあらかじめ市と協議して定める。

(5) 業務日誌

事業者は、運營業務の日誌を作成し、毎日の記録を正確に録取し、これを市の求めに応じて市に提出するほか、運営期間中全て保管すること。なお、業務日誌の様式、内容等はあらかじめ市と協議して定める。

以上

別紙 11 サービス購入料の金額と支払スケジュール

（第55条、第56条、第64条第1項第1号ないし第3号、

第65条第4項第1号ないし第3号並びに第66条第2項第1号及び第2号関係）

※入札説明書の内容を契約時に転記する。

以上

別紙 12 サービス購入料の減額の基準と方法

（第53条第1項及び第2項、第57条、第60条第2項関係）

※入札説明書の内容を契約時に転記する。

以上

別紙 13 法令変更による費用の負担割合

(第14条第3項第3号、第35条第2項第3号、
第37条第1項第3号、第41条第3項、第62条第2項関係)

	市負担割合	事業者負担割合
1 本事業に特別に影響を及ぼす法令の 新設・変更の場合 (税制度を除く。)	100%	0%
2 事業者の利益に課される税制度の 新設・変更の場合	0%	100%
3 2以外の税制度の新設・変更の場合	100%	0%
4 上記1から3以外の法令の新設・変更の場合	0%	100%

以上